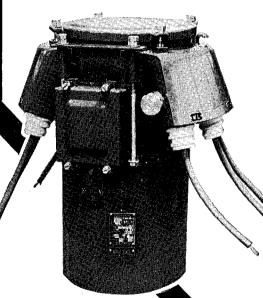
Osaki

最高の確度と信頼度を持つ

積算電力計

(単相用　ＯＢ－７)
(３相用　ＯＷ－７)

ＯＢ－7型広範囲単相積算電力計

計器用変成器

6600Ｖ用重予型ＰＣＴ　ＰＤＮ形

主要製品

積算電力計・電流制限器
計器用変成器・電圧調整器
配電盤・分電盤・制御盤

大崎電氣工業株式會社

本社・五反田工場　東京都品川区五反田１の２６３　電話東京(443) 7171代表
蒲田工場　東京都大田区原町10　電話東京(732) 6511代表
埼玉工場　埼玉県入間郡三芳村大字藤久保　電話所沢(22) 1205代表

私のことば

ハンドボール選手の 人間完成へ努力

野原博彦（大阪協会会長）

昨年6月大阪協会の理事会で「君を大阪ハンドボール協会長に推薦することになったから受けてもらいたい」と要請された。当時はハンドボール競技自体はもちろん協会の組織運営などについて、ほとんど知識がない。果たして会長の重責を果たすことができるかどうか迷ったのであるが、関係者の熱意に動かされ、平素より心掛けている「友愛と奉仕」の機会が与えられたものと思い、お引き受けしたしだいである。

社会の識者から指摘されているとおり、現代の青少年は中学、高校過程において日々に入学試験に全精力を使いすぎている。最も肉体的に発育、充実すべき年齢期に体位向上のための練成の機会を失い、社会に出てほんとうに実力を発揮す時期に体力がなく、きびしい生存競争から脱落するものが多い。これは現在の日本の教育制度の欠陥に起因するものであって、やむを得ない。しかし民族百年の大計を考えるとき、まことに重大な問題である。

われわれスポーツの関係者としては、現代の知的偏重の教育から脱皮して、頑健な肉体の完成の上に形成された教児の充実を指向しなければならない。幸いハンドボールは狭い場所（試合でなければ）と一個のボールがあれば簡単にだれにでもできる。しかもランニングとスローがあるために上半身ともに発達して頑健なる体力を養うには最適のスポーツである。そして個人的プレーよりも団体的プレーに重点が置かれる。このため最近ややもすれば、民主主義的個人主義のはき違いによって、失われがちになっている団体的集団的、または共同的精神の鍛練には最適のスポーツであって、青少年はもちろん一般の人たちにも推奨できるものである。この意味においてわれわれはハンドボール選手の人間完成とハンドボールの普及発展のために尽力しなければならない。

本年度の運動方針として①底辺の拡大②技術指導の充実③協会所属団体またはチームの縦横相互の関係の緊密化――を目標に掲げ、協会役員一同、この目標達成のために精進することを堅く約束しました。全国の諸兄のご指導をお願いするしだいです。

ハンドボール「第31号目次」

昭和41年2・3月合併号

〔表紙写真〕

2月6日大阪府立体育会館で開かれた第6回全日本実業団選手権大会から

日本ハンドボール協会評議員会

後任会長は慎重に進める

中国(男)ユーゴ(女)を招待

日本ハンドボール協会評議員会は2月26日午後1時から東京・代々木の岸記念体育会館501号室で開かれた。日本協会から馬場副会長ら、評議員は松川金七氏（宮城県協会長）ら多数が出席した。

この評議員会で41年度の予算、行事日程を議決し、空席中の会長については関係各方面と協議し、早急に決定したいむねの報告を了承した。また41年度の国際試合は中国（男子）ユーゴスラビア（女子・予定）の来日、42年1月スウェーデンで開かれる第6回男子7人制世界選手権大会の出場である。

なお41年度から一般の部の個人登録は各地区において、チーム数の増加をはかることを条件として100円（現行200円）となった。

▽評議員　松川金七（宮城）藤間英一（埼玉）数原洋二（東京＝代理）保坂周助（神奈川）田村正衛（三重）野田聖太郎（和歌山＝代理）野原博彦（大阪）村山寛（岡山）古賀和佐雄（実業団）＝9人

▽有効委任状　北海道、岩手、栃木、山梨、新潟、長野、岐阜、愛知、兵庫、鳥取、島根、山口、愛媛、高知、福岡、長崎、宮崎、鹿児島、全日本学連、高体連＝20票

▽無効委任状　秋田、福井、滋賀、熊本、佐賀＝5票

▽日本協会　馬場太郎、高嶋冽、若崎重富、加藤裕策、松本重雄、境井秀三、青木近衛、山田計、的場益雄、徳永陸繁、岡村昭二

▽オブザーバー　片瀬喜代次（静岡）佐藤敦（岩手）角田保範（大分）

「報告事項」

国際関係（高嶋）国内関係（岡村）審判部（若崎）技術部（松本）普及部（的場）について担当者から報告があった。次いで高嶋理事長から「会長代行について」報告があった。これは日本協会発行の公文書関係は副会長の鈴木達雄氏（レナウン工業株式会社社長）とし、大会関係は東部地区が鈴木達雄副会長、中部地区が小杉仁造副会長（愛知紡績株式会社社長）、西部地区が馬場太郎副会長とするむね報告し、再確認した。

また国体種目について2月9日付けの新聞発表で、国体必須種目にハンドボールがはいっていなかった。これにかんしては国体開催基準要項改正小委員会で種目を検討する。ハンドボールは現在、45都道府県で行なっているが、ことし3月に徳島県が加盟する予定である。

一般の部の登録費は100円

「協議事項」

1、昭和39年度会計（決算）報告＝可決

2、昭和40年度一般会計追加予算案＝可決

3、昭和40年度機関誌会計追加予算案＝可決

4、昭和41年度の重点施策について

高嶋理事長から「41年度の重点施策はハンドボール少年団を含む中学校、高校への普及、ナショナルチームの強化の二点である」と説明し、可決された。

5、昭和41年度一般会計収支予算案

加藤常務理事（会計担当）から予算総則について説明した。これにたいし、野原評議員は「予算総則のうち第10条は削除した方がいい」と指摘、予算総則第10条を削除、可決された。

加藤常務理事は登録金について「従来は一般の部は人員×200円だった。19日の理事会でチーム数をふやす意味から100円にした方がいいという声が強かった。このため200円を100円に引き下げた」と注目すべき説明があった。

6、昭和41年度機関誌会計予算案

加藤常務理事から予算にゆとりがあった場合、年11〜12回発行するが、一応10回発行としてある」と説明、可決された。

7、昭和41年国際競技会予算案可決

8、昭和41年度行事予定可決

任期まで改選せず

9、その他

高嶋理事長から①規約改正に伴う人事②新会長問題―について発言があった。「人事については1

来年1月の世界選手権参加

昭和41年度日程

国内関係

第9回全日本学生選手権大会　7月13日(水)～17日(日)大阪府

第17回全国高校選手権大会　8月2日(火)～8日(月)盛岡市

第9回全日本教職員選手権大会　8月13日(土)～15日(月)水戸市

第18回全日本総合選手権大会　8月21日(日)～25日(木)浦和市

第15回全日本学生東西対抗戦　9月18日(日)　名古屋市

第21回国民体育大会　10月23日(日)～28日(金)大分市

第19回全日本学生王座決定戦　12月3日(土)　大阪市

第13回全日本選抜選手権大会　12月21日(水)～25日(日)東京都

第7回全日本実業団選手権大会　42年2月5日(日)～9日(木)　名古屋市

第1回ハンドボール少年団交歓会　7月下旬　柏崎市

国際関係

中国チーム招待　9月15日～3週間滞在

コーゴチーム招待　ロコモティブ女子チーム　（折衝中）

第6回男子7人制世界選手権大会参加　42年1月　スウェーデン

年の残存期間があるので任期まで改選しない。その理由は、下部組織から選ばれた役員は2年の任期がある。また故式場会長の指名された役員は、新会長が決まってから改選されるべきである。新会長については、まだ白紙である。各方面と協議したうえ慎重に進めたい」。

大会に補助金を要望

「質疑および要望」

村山評議員（岡山）全国高校選手権大会に日本協会から補助金を出してもらいたい。これは高体連関係者の要望である。

日本協会　昨年の熊本大会の収支決算表を提出してもらいたい。それによって検討したい。

保坂評議員（神奈川）各県に補助金を出してほしい。

野田評議員代理（和歌山）日本協会の年間行事に補助金を出してほしい。

野原評議員（大阪）普及のために8ミリまたは16ミリ映画をつくったらいいと思う。また日本協会は実業団、学連、高体連などと連絡を密にしてほしい。

野田評議員代理（和歌山）議事の順序として行事予定を予算の前に協議してほしい。

午後3時15分散会　（了）

一千万円の大型予算を可決

日本ハンドボール協会昭和41年度一般会計収支予算
機関誌会計および国際競技会計収支予算

予算総則

第1条　昭和41年度一般会計収支予算・機関誌会計および国際競技会計収支予算の支入支出を別表(1)(2)および(3)のそれぞれ予算書のとおり定める。

第2条　日本ハンドボール協会にたいする都道府県協会の加盟金年額10,000円とし、機関誌購読料6,000円とする。

第3条　日本ハンドボール協会のチーム登録に必要な登録金等は下記のとおりとする。

	基本金	機関誌	オリンピック基金	その他	計
高校	600	1200	100		1900
大学	1000	1200	100		2300
一般	1000	1200	100	*人員×100	2300+人員×100

*追加登録　人員×500

第4条　日本ハンドボール協会の検定料は公認業者ごとに年額30,000円とし、検定物品一点につき50円を追加するものとする。

第5条　日本ハンドボール協会のルールブックは実費配布とする。

第6条　日本ハンドボール協会の審判員審査料は、D級は100円、D級以外は500円とする。

第7条　日本ハンドボール協会の機関誌購読料は一部150円とする。

ただし、年間購読契約料は年間1,200円とする。

第8条　本予算は予備費を除き、この予算の各項に定めた目的以外にこれを使用することはできない。

ただし、予算の執行上やむをえない場合にかぎり、評議員会の議決を経て、各項目間においてこれを流用することができる。

第9条　オリンピック基金はオリンピック大会参加の目的に使用するため積み立て金とする。

第10条　収入が予算額に比し減少するとき、または前年度の決算において収支欠損金を生じた場合は、本予算中の事業支出を差し繰り補充しなければならない。

昭和41年度一般会計収支予算書

支出		収入	
I 本部費	**3,130,000**	前期繰り越し金	3,822,363
会議費	288,000	オリンピック基金	110,000
渉外費	400,000	加盟金	410,000
旅費	320,000	登録金	1,400,000
通信費	372,000	大会参加料	400,000
印刷製本費	350,000	検定料	1,000,000
人件費	500,000	審査料	100,000
備品費	100,000	ルールブック	200,000
消耗品費	100,000	補助金	3,300,000
賃借費	480,000	寄付金	0
分担金	100,000	その他	0
事務局費	120,000		
II 事業費	**2,900,000**		
大会費	400,000		
大会旅費	500,000		
講習会費	200,000		
講習会旅費	300,000		
講習会謝金	100,000		
強化費	600,000		
強化旅費	600,000		
印刷費	200,000		
III 補助金および他会計へ	**2,700,000**		
実業団強化費	100,000		
学連強化費	100,000		
高体連強化費	100,000		
ハンドボール少年団費	400,000		
国際競技会計へ	2,000,000		
IV オリンピック基金	**110,000**		
V 予備費	**500,000**		
VI 後期繰り越し金	**1,402,363**		
計	10,742,363	計	10,742,363

昭和41年度機関誌会計予算書

支出の部		収入の部	
印刷費（年間10回発行予定）	1,570,000	前期繰越金	0
封筒印刷費	40,000	購読料	1,600,000
編集費	600,000	広告料	1,100,000
通信費	120,000		
人件費	272,000		
賃金	10,000		
交通費	12,000		
消耗品費	10,000		
取材費	55,000		
予備費	11,000		
計	2,700,000	計	2,700,000

昭和41年度国際競技会計収支予算書

支出の部		収入の部	
男子世界選手権大会	4,900,000	前期繰り越し金	1,463,854
		一般会計から	2,000,000
日・中 日・ユーゴ大会	8,000,000	日・中 日・ユーゴ大会	8,000,000
後期繰り越し金	2,063,854	補助金	3,500,000
計	14,963,854	計	14,963,854

第6回全日本実業団選手権大会

大洋デパート(女子)が初優勝

男子 大崎、善戦の千代田を破る

41年2月・大阪市

第6回全日本実業団選手権は2月2日から5日間、大阪府立体育会館（第3日まで大阪市立中央体育館を併用）に男子26、女子5チームが参加して行なわれた。全日本実業団連盟の発足、有望新人の加入など話題の多い実業団球界だけに盛り上がりのある大会となった。男子は大崎電気（埼玉）が6連勝して全日本総合、国体に続いて三つ目の全国タイトルを獲得した。女子は全日本選抜の決勝リーグが再現され、一日ごとに首位が入れ替わるデッドヒートを演じた結果、大洋デパート（熊本）が宿願の初優勝を飾った。

宮原（藤）選手を胴上げする大崎チーム

宗形、主力欠場で苦戦

男子

▽1回戦（26チームによるトーナメント）

チーム	得点	前半	後半	延長	得点	チーム
安田生命（東京）	28	15—6	13—13		19	京都信用金庫
川崎車輌（兵庫）	29	8—9	21—7		16	大同製鋼（愛知）
盛岡市役所（岩手）	25	11—5	14—4		9	日東電工（大阪）
三菱重工（愛知）	19	6—7	13—10		17	丸善石油（和歌山）
タヨシ産業（愛知）	21	11—10	10—10		20	京都市役所
日新製鋼（広島）	28	10—5	18—5		10	小松製作所（石川）
大阪ガス（大阪）	23	10—9	9—10	2—0、2—1	20	秋田市農業共済組合（秋田）
三井石油化学（山口）	29	15—4	14—7		11	自衛隊32普通科連隊（東京）
日本原子力研究所（茨城）	24	13—6	11—10		16	美津濃（大阪）
宗形製作所（大阪）	22	10—11	12—6		17	自衛隊勝田（茨城）

宗形が自衛隊勝田の食い下がりが苦しめられた。勝田のダークホースぶりは定評のあるところだが、この試合ではエース福井（防衛大出）がすばらしい当たりで一人で12点をあげた。他の選手も基本に忠実な動きを見せたため宗形は押されどおしだった。後半キャリアの差でどうにか逆転したものの、前回2位の面目はなかった。

川崎対大同も好試合。大同が押し気味に試合を進めていたが、川崎は後半8分12—12から宇屋（新居浜工高出）が連続5ゲットして試合の主導権を握った。三菱対丸善も同じような試合経過で11—11から三菱が尾之内（桜台高出）深谷（中京商出）の突進力で一気にリード、逆転勝ちした。タヨシ対京都、秋田農業対大阪ガスは得点の変化は目まぐるしかったが、単調な攻め合いに終始し、おもしろ味に乏しかった。

住友化学勝つ

▽2回戦

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
大崎電気（埼玉）	37	21—5	16—8	13	川崎車輌
三菱重工	22	10—6	12—7	13	盛岡市役所
住友化学（愛媛）	43	25—6	18—7	13	タヨシ産業
日本鋼管（神奈川）	27	12—4	15—13	17	日本原子力研究所
千代田印刷機製造（東京）	47	25—3	22—6	9	大阪ガス
宗形製作所	41	16—4	25—13	17	日新製鋼
三菱レイヨン大竹（広島）	28	9—6	19—6	12	安田生命
本田技研（三重）	26	12—8	14—8	16	三井石油化学

本田対三井は期待どおりの熱戦。三井は、本田のパスプレーをカットしては攻め込んだが、得意のロングシュートが決まらず、先手をとりながら大きくリードすることができなかった。本田は早い動きとパスでしり上がりに調子をあげ、大下（中京商出）を中心にしたゆさぶりで前半15分すぎから試合のペースを握った。

三井は後半3分から約15分間、得点できず、この不振が大きくひ

びいた。

三菱対安田は、リードされた安田の反撃に興味がもたれたが、後半再開後、三菱の攻撃に13―6とされ、戦意をなくしてしまった。三菱重対盛岡は、ゴール前の動きにすぐれている三菱が盛岡のパスプレーを押え、3年前の豊橋大会（第3回準々決勝）での借りを返した。そのほかはシードチームの一方的な試合で、勝ちチームのすぐれた個人技が光っていた。

日本鋼管惜敗

▽準々決勝

大崎電気 32（13―7 19―6）13 三菱重工

得	【大崎】		【三菱】	得
0	福本	GK	早川	0
5	宮田	FP	平子	0
3	北村	FP	長谷川	0
4	宮原藤	FP	塚本	0
3	竹野	FP	北野	0
10	井上	FP	尾之内	6
4	餅原	FP	深谷	6
3	西村	FP	神谷	0
		FP	大場	1
		FP	荒木	0
32	(0)	7MT	(0)	13

住友化学 19（10―7 9―7）14 日本鋼管

得	【住化】		【日鋼】	得
0	季原	GK	安田	0
		GK	湯原	0
4	落海	FP	赤裏	0
1	上田	FP	本田	1
0	村田	FP	鈴木	0
0	松井	FP	中村	3
3	長峯	FP	小林	4
7	加藤	FP	林	0
4	北山	FP	岩野	0
0	伊藤	FP	松村	6
0	中野	FP		
19	(0)	7MT	(3)	14

見ごたえのある試合だった。住化は加藤（新居浜工出）を主力に盛んにロングシュートを飛ばして、日鋼のディフェンスをくずして優位に立った。日鋼も松村（下松工出）小林（都立商出）らのカットインプレーで対抗したが、住化ディフェンスの乱れを誘うところまでいかなかった。日鋼が逆襲をあせって、GKのボール出しとFPの突進のタイミングが合わず、かえって住化につけ込まれていたのは研究を要す（丸岡主審）

千代田印刷機製造 19（10―8 9―6）14 本田技研

得	【千代】		【本田】	得
0	永富	GK	本田	0
5	青木	FP	小林	0
2	木田繁	FP	岸田	0
4	吉川	FP	花井	3
4	木田雅	FP	小川	1
2	佐久間	FP	松岡	2
2	安藤	FP	大下	8
0	佐藤	FP	佐藤	0
0	宮永	FP	水谷	0
0	松波	FP	浜野	0
19	(2)	7MT	(2)	14

本田の善戦でもつれた。千代田は青木（芝浦工大出）、安藤（中京商出）ら全員が平均したシュート力をもち、それだけに攻法も多彩だった。本田も大下、花井（中京商出）が松岡（四日市工出）の好パスを生かして攻めたが、前半ノーマークシュートを再三落とし、これが宿願の準決勝進出をはばんだともいえる（井上主審）

宗形製作所 11（5―4 6―6）10 三菱レイヨン

得	【宗形】		【三菱】	得
0	鷹見	GK	重村	0
0	坂本	FP	田中	2
1	多久	FP	兼森	1
3	中村	FP	前川	0
4	久保	FP	野中	0
2	五味	FP	池田	2
0	好田	FP	赤名	2
1	辻	FP	町田	0
0	栗沢	FP	沖重	3
		FP	和田	0
11	(1)	7MT	(0)	10

宗形はポイントゲッターの越智（芝浦工大出）が1月の大会で右肩骨折したため欠場。このためチーム力が落ち、1回戦から苦戦続き。この試合も三菱の気力に押され、薄氷を踏むような戦いぶりだった。タイに持ち込んだ三菱は、そのあとも老巧な試合展開をみせたが、一気に勝負をつける迫力がなく、後半半ばに宗形の速攻を許してしまった。要所で7MTを失敗したのも敗因だが、これは宗形GK鷹見（芝浦工大出）の好守を賞すべきだろう。

敗れたとはいえ三菱の健闘は光った。ベテラン赤名、加藤、沖重らが相変わらず元気なプレーをみせたのはほめられる。（杉山）

宗形製作所敗れる

▽同準決勝

大崎電気 33（15―4 18―4）8 住友化学

得	【大崎】		【住化】	得
0	福本	GK	季原	0
8	北村	FP	落海	0
3	宮原藤	FP	上田	1
0	竹野	FP	村田	0
3	井上	FP	松井	0
8	餅原	FP	長峯	2
5	西村	FP	加藤	5
6	宮田	FP	北山	0
		FP	中野	0
		FP	公文	0
33	(0)	7MT	(0)	8

男子決勝、大崎電気―千代田印刷機戦から（GKは大崎電気の福本）

住化の先制を期待されたが、前半5分5－1とリードされ、その後も大崎の速攻が決まって前半で勝負がついた。住化の加藤の判断のよい攻撃力は目だった（杉山）

千代田印刷機製造 21（12－4、9－4）8 宗形製作所

【宗形】	得		【千代】	得
鷹見	0	GK	永富	0
多久	1	FP	青木	4
中林	3	FP	木田繁	0
久保	2	FP	吉川	6
好田	0	FP	木田雅	6
辻	1	FP	佐久間	2
中村	0	FP	安藤	3
栗沢	1	FP	佐藤	0
兵頭	0	FP	宮永	0
		FP	松波	0
8	（1）	7MT	（0）	21

宗形は越智の欠場に加えて五味（桃山学院大出）も負傷し、久保の巧妙な配球も散発的。前半10分7－4以後は、一方的な経過で千代田が試合を進めた。千代田の決勝進出は初めて。関東同士の優勝争いとなった（杉山）

▽決勝

大崎電気 23（13－5、10－9）14 千代田印刷機製造

【大崎】	得		【千代】	得
福本	0	GK	永富	0
餅原	3	FP	青木	3
北村	4	FP	木田繁	1
金田	0	FP	佐久間	3
宮原藤	1	FP	木田雅	5
竹野	7	FP	宮永	0
井上	6	FP	安藤	2
西村	2	FP	佐藤	0
小谷内	0	FP	鈴木	0
田口	0	FP	松波	0
23	（2）	7MT	（2）	14

千代田は初優勝をねらって気力のある攻防をみせた。このため試合は予想以上の接戦で、大会の最後を飾るにふさわしいものとなった。千代田は青木のリードで木田雅、佐久間（ともに芝浦工大出）安藤らがよく動き、4－1、7－3、8－5と3点差の優位を続けた。しかし、前半17分青木が7MTを落としたのを境いに、大崎の攻撃テンポが早まり、あっさり試合のペースが移ってしまった。

後半開始直後、千代田は木田雅の連続ゲットで11－10と逆転する粘りをみせたものの、10分をすぎるころから攻防両面で疲れが見え始めた。特に帰陣の遅れが目だつようになってはもういけない。GK福本（芝浦工大出）の大胆ながらも計算されたボール出したから、大崎のあざやかな速攻が連続し、12－12のスコアボールドが17－12に変わるまで5分とかからなかった。大崎はジャンプ体勢からポストマンにバウンドパスを送ったり、シュートの多彩さなど相変わらずのうま味をみせた。他のチームがわずかながらも、その差を詰めてきたのは喜ばしい。

試合後竹野主将（日体大出）は「仕事の関係で主力が欠場したこともあるが、大会前の練習が不足していたのも事実」と話していたが、そうした安易さが許されなくなるのも、ここ一、二年のことではなかろうか（杉山）

× × ×

総評

内容に乏しかった男子

大会副審判長　岡本克彰

岡本　克彰

過去5連勝の大崎電気の優勝は国外、国内大会において豊富な経験を持ち、大会前から本命とされていた。やはりその実力は抜群で、随所にその強味を発揮した。2位になった千代田印刷は走力、コンビネーション・プレーにうまさが加わり、大いに大崎電気を苦しめた。このチームの若さと馬力はこれからチームとして期待できる。

ベスト8は順当であろう。宗形製作所は主力選手を欠き、苦戦の連続で3位を得た。他のチームにもいえることだが、試合にベストコンディションで望めるよう健康管理に万全を期することが重要である。女子に比較し試合内容が低調で、下位チームのレベルアップが望まれる。その中で目だった好試合は千代田印刷対本田技研、住友化学対日本鋼管ぐらいである。

女子はリーグ戦であるため過去何回ともなく対戦しているのでお互いに相手を知り尽くしている。その日のコンディションと作戦の失敗、基本ミスが敗戦につながる直接の動機となっていた。大洋デパート、田村紡、大崎電気はほとんど実力差はない。大洋デパートと田村紡が3勝1敗の同率となったが、得点率で大洋デパートが田村紡をわずかに上回り初優勝が決まった。大洋デパートは世界選手権大会に出場した選手を中心にチーム力も向上していたが、それに加えて相手をよく研究したあとがうかがわれる。各チームに「ムラ」のない試合をしたこと、とくに対田村紡戦でその効果が現われていた。

2位の田村紡は優勝候補の第一にあげられながら対大洋戦で、前半大洋ペースにのせられ、ミスの連続で敗れた。技術的には田村紡がやや上であったが、若さのためか、その日の調子によってところどころ荒さが目だったようである。対大崎電気で健闘した愛知紡、試合ごとに実力を上げた三菱鉛筆、この2チームの今後の活躍が期待される。最終日の田村紡対大崎電気は速攻に次ぐ速攻で手に汗を握る好試プレーを展開し、最後まで1点差を争う好試合で観客をうならせた。

大会ごとに注意されてきたマナーについても今回はりっぱだった。各チームとも最後まで全力を尽くして戦った。メンバー提出、ユニホームなどに不備な点があり、その面の研究不足が感じられた。全般的に強いチームは防御が堅く、攻防の切り替えが非常に早く、攻撃しながら防御できる体制は完ぺきであった。そういうことから、毎日の練習の差が大きく勝敗に現われたということができる。

年々試合内容も充実し、観客もプレーヤーとともにハンドボールを楽しむという人がますますふえてきた。これは競技者はもちろん、一般の人のハンドボールにたいする関心が高まり競技そのものが目で楽しめるということをはっきりと現わしている証拠であろう。最後にこの大会が成功したことは競技内容の充実、審判の技術的向上が大きくあげられる。事前に技術研修会を開き、試合運営を円滑に進行するなど努力した結果のたまものであろう。なお残念なことは女子チームの参加数の少なかったこと、国体で活躍した岐阜県チームの不参加である。

4強、星をつぶし合う

（5チームによるリーグ戦）

女子

大洋デパート（熊本）8（6−1 2−4）5 田村紡（三重）

大洋はカットイン攻法でマーク

女子リーグ・大崎−田村紡

得	【田村】		【大洋】	得
0	渡辺美	GK	山口	0
1	種村	FP	久連松	3
0	川口	FP	中村	2
0	水谷	FP	枝尾	1
0	内藤	FP	新保	1
3	渡辺好	FP	射場	0
1	清水	FP	隈	1
0	渡辺信	FP	稲田	0
0	小林	FP	今村	0
0	信藤	FP		
5	(0)	7MT	(1)	8

の甘い田村のディフェンスを割り、前半12分までに4−1とリード、試合の主導権を握った。田村紡もポストプレーやカットインなどで攻めたものの、大洋の早いつぶしにあってパスをカットされ、前半は13分渡辺好がゲットしただけ。

後半ようやく〝走り〟を取り戻して追い込んだが、前半の劣勢をはね返せなかった。久連松を中心に、追われながらも最後まで試合のペースを放さなかったのが大洋の勝因（東主審）

愛知紡（愛知）14（8−1 6−2）3 三菱鉛筆（東京）

大崎電気（埼玉）6（3−2 3−4）6 愛知紡 引き合け

大崎は鈴木に日ごろの精彩がなく、全体の動きもスピードに欠けた。愛知紡もサウスポー伊藤がタイミングのよいシュートを飛ばして互角に試合を進めたが、もうひと息迫力がたりなかった。終盤大

得	【大崎】		【愛紡】	得
0	川崎	GK	篠崎	0
2	笠原	FP	小林	2
2	早川	FP	伊藤	3
2	宇井	FP	古谷	1
0	黒川	FP	関口	0
0	鈴木	FP	高橋	0
0	永井	FP	村上	0
0	伊藤	FP	近藤	0
0	加藤	FP	小野	0
0	小笠原	FP	韮塚	0
6	(1)	7MT	(0)	6

崎は、7MTで優位に立ちながら愛知紡の粘りに同点とされ、勝つことができなかった（杉山）

大洋デパート 14（6−2 8−1）3 三菱鉛筆

得	【三菱】		【大洋】	得
0	林	GK	山口	0
1	三井田	FP	小原	0
1	佐々木房	FP	久連松	2
1	佐々木洋	FP	中村	4
0	鈴木	FP	枝尾	3
0	木村	FP	新保	3
0	江川	FP	射場	1
0	藤盛	FP	隈	0
0	蓮見	FP	稲田	0
		FP	今村	0
3	(0)	7MT	(0)	0

田村紡 13（7−2 6−3）5 愛知紡

大崎電気 4（3−1 1−1）2 大洋デパート

得	【大洋】		【大崎】	得
0	山口	GK	川崎	0
0	久連松	FP	笠原	2
1	中村	FP	早川	1
0	枝尾	FP	宇井	0
0	新保	FP	黒川	0
1	隈	FP	鈴木	1
0	稲田	FP	永井	0
0	今村	FP	伊藤	0
0	射場	FP	加藤	0
		FP	小笠原	0
2	(0)	7MT	(0)	4

1−1から大崎は、前半17分黒川−早川と回し、さらに19分黒川−笠原のリターンパスプレーで3−1とリードした。チーム力が互角なだけに大洋はこの負担が重荷となった。後半15分、中村がノーマークからゲットして1点差としたものの、大崎もすぐ早川のあざやかなジャンプシュートで〝2点差〟をキープ、押し切った。大洋はたびたびチャンスを迎えながらシュートに失敗し、だいじな星を落とした（杉山）

大崎電気 10（5−1 5−1）2 三菱鉛筆

田村紡 13（7−0 6−1）1 三菱鉛筆

大洋デパート 13（7−2 6−2）4 愛知紡

田村紡 4（2−2 2−1）3 大崎電気

得	【大崎】		【田村】	得
0	川崎	GK	渡辺美	0
1	笠原	FP	種村	1
1	早川	FP	川口	0
0	宇井	FP	水谷	0
0	黒川	FP	内藤	2
1	鈴木	FP	渡辺好	1
0	永井	FP	清水	0
0	加藤	FP	渡辺信	0
0	伊藤	FP	信藤	0
0	小笠原	FP	小林	0
3	(0)	7MT	(0)	4

大崎が勝てば優勝、田村が勝てば大洋と同率（3勝1敗）となり得点率の争いになるため、両チーム緊張のスタートだった。とくに田村は委縮したプレーが多く、2分、GK渡辺がミスパスをして無人のゴールへ笠原に投げ込まれ、3分には平凡な横パスを鈴木にインターセプトされ、独走を許して2点を失った。結果的には、この2失点の負担が田村紡の優勝を断ち切ったのだから惜しい。

大崎もスピードこそあったが、せっかくノーマークとしながらラインクロスなどで実らず、両チームとも自ら優勝への道を閉ざした感じだった。互いに相手のディフェンスをくずそうと目まぐるしくボールを回したものの、切れ味が悪かった。攻め口も単調で、トップチーム同士らしい〝くふう〟がなかったのは物たりない（杉山）

	大洋	田村	大崎	愛紡	三菱	勝	負	分
1 大洋	×	○	●	○	○	3	1	0
2 田村	●	×	○	○	○	3	1	0
3 大崎	○	●	×	△	○	2	1	1
4 愛紡	●	●	△	×	○	1	2	1
5 三菱	●	●	●	●	×	0	4	0
得点	37	35	23	29	9			
失点	16	17	14	35	51			

得点率

大洋＝0.698
田村＝0.670

東京学芸大に女子の部

東京学芸大は4月から女子チームをつくる。発起人は加藤直子さん（静岡城北高出）で、「正式にハンドボールをやったのは私ひとりですが、大学からクラブ活動を認められているので、女子ハンドボール部をつくってみたいと思っています」。と話している。

球界パトロール

名古屋市の小学校大会を見る…………

～15年の歴史の背景～

オリンピック東京大会以後、国内のスポーツ界は申し合わせたように「底辺拡充」「競技層の増大」を説いている。そして、その具体的な現われとして、年少者（中学生以下）に競技を普及させようとしているのも共通した傾向である。「少年サッカー教室」「ラグビースクール」「〇〇スイミングクラブ」などがそれである。

ハンドボール界もこの流行？に遅れまいと日本協会の普及部、技術部などで構想をひねっているようだが、にわかにクローズアップされてきたのは名古屋市。柏崎市（新潟）などで行なわれている「小学生ハンドボール」である。柏崎市の場合は、スポーツ少年団活動の色彩に近いが、名古屋市の場合は、すでに15年の実績があり〝小学校球界〟を形成しているほどである。

「名古屋市小学校ハンドボール指導会」と名付けられた年1回の〝選手権大会〟にはチビっ子ハンドボーラー（おもに5・6年生）が市内から男女合わせて二百人ほど集まる。3年連続優勝を飾って優勝楯のほかに、記念のトロフィーをご褒美にもらうような〝名門〟〝古豪〟も生まれている。15年もの実績が積まれた背景は、ハンドボールがドッジボールやポートボールに似て、小学生でも簡単にできること。さらにスポーツ・テストにハンドボール投げが含まれていることなどがあげられよう。しかし、なによりも指導者の情熱がここまで育てあげてきたのだ。

創設いらいこの大会の発展に力を尽くしている伊藤宗一氏（名古屋市立桜田中教諭）は『最初はハンドボールの好きな先生が、担任のクラスの児童を集めて参加していた。最近は全校的な編成で野球、ソフトボールなどと並んで〝部組織〟が確立されている学校も多くなった』と話している。そうした学校はその練習ぶりも組織的であり、かなり技術的である。

この大会の運営が、使用球に「教育用1号ボール」を採用していること、試合時間が前後各10分なこと以外はすべて協会規則に準じていることは注目してよい。ゴールもコート（8×18）も一般なみであり、11人制時代も成人（一般）と同じ広さのフィールドを使っていたという。

『小学校だからといって規模を小さくしたり、特別ルールを設ける必要はない。むしろ、ハンドボールはおとなでもこのコートでやるのだという気持ちを与えることの方が、子供たちにスポーツを理解させるのに役立つ』と言う伊藤氏のことばは、大いに共鳴できる。

ディフェンスのマークをはずし
あざやかなジャンプシュート、
（名古屋市指導会から）

草野球の少年たちが、いちどプロ野球のグラウンドで試合をやってみたいナと思ったり、ユニホームを着た正式の野球をやりたいナと思うあの気持ちである。もし仮に小学生向きの〝特製コート〟を与えたら、彼らはきっと『ドッジボールの方がおもしろいヤ』と逃げて行ってしまうだろう。

遊技から本格的スポーツへそろそろ興味を持ち始める小学校の高学年生にとって、おとなのルールの適用はこの上ない満足感を与えるわけなのだ。

それだけに、子供たちの試合のツボにたいする認識度はきわめて高い。ノーマークにでもなろうものなら、ベンチから大歓声があがる。これほどレベルの高い観衆を前にした試合はざらにはない。『〇〇ちゃん、キーパーのタイミングはずしてシュートしなけりゃダメだよオ』。この声援を聞いたときだけは、さすがの私も驚いた。もちろん、全チームがこうだというのではない。7MTをフリースローラインから打つ強肩？の坊やがいたりするのだ。そのたびに主審の先生が試合を中断して指導するためだが、敵も味方もいっしょになって注意を聞いている姿はほほえましい。

優勝を争う形式が採られているものの、あくまで「指導会」なのである。負傷に細心の注意が払われるのは当然である。小学生なるが故の問題点も多い。ハンドボールのうまい子供は競走も早いし、野球もうまい〝運動会の主役〟たちだ。それだけにじみな練習をつづける根気があまりない。練習時

矢田小学校チーム

間の大部分が試合形式になる理由だ。「GKになり手がない」というのもわかる気がする。

しかし、それよりなにより現場の先生がたに聞く最大の問題点は「中学正課体育」にハンドボールがはいっていないことだ。

正確な数字はつかんでいないが、この指導会で育った子供たちが中学に進んでハンドボール部に入る例は二割弱程度らしい。むしろ他競技を行なう子供が多いという話だ。先生がたは異口同音に『中学の正課にはいっていれば、もっとハリ合いがあるのですが』という。

文部省体育局は「小学体育は一種目にとらわれず、基礎的な体力をつけることが理想」としているが、競技団体にしてみれば〝理想はあくまで理想〟であろう。

ましてや発展途上のハンドボール界であってみれば、なおさら小さいときからハンドボールになじみ、将来へつなげてほしいわけである。中学正課体育への復活については日本協会も盛んに動いており、高嶋理事長は『明るい見通しになっている』といっている。年少ハンドボール界の開発については『昭和41年度中にハンドボール少年団の全国キャンプを実現したい』と話している。（杉山）

高橋君5月に挙式

大崎電気の男子マネジャー高橋滋夫君（日体大出）と女子マネジャー伊藤せつ子さん（静岡城北高出）が5月に結婚式をあげる。仲人は大崎電気の渡辺和美社長夫妻。昨年夏に婚約していたもので、伊藤さんは2月下旬正式に退社した。

高橋君

伊藤さん

日本ハンドボール界の父、死去

大谷武一氏

1月29日午後11時、急性肺炎のため東京世田谷区北沢の自宅で死去。78歳。兵庫県出身。葬儀は31日、告別式は2月3日東京青山葬儀所で行なわれ、ハンドボール関係者も多数参列した。

大谷氏は、日本にハンドボールを紹介した人として有名である。大谷氏の指導がなければ、日本にハンドボールの発達と普及はかなり遅れ、今日の隆盛を築くことはむずかしかったろう。ハンドボールの紹介のほかラジオ体操の創作、正常歩の提唱、ソフトボールの紹介など体育、スポーツの普及に貢献。昭和37年紫綬褒章を受けられている。また東京教育大学名誉教授だった。

大谷氏とハンドボール

大正初期欧米に体育研究のため渡っていた大谷氏が、大正8年（1919年）のある日、ベルリン郊外のスパンダウの広場で見なれぬ球技に親しむベルリン市民の姿を見た。その球技がハンドボールの前身トーアバルであり、大正10年に帰国した大谷氏（当時東京高等師範学校教授）はさっそく翌年の日本体育学会夏季講習会でこれを紹介した。ベルリン体操連盟によって「ハンドボール競技規則」が制定・刊行されたのは大正9年（1920年）と伝えられる。この夏季講習会で、すでにトーアバルから発展した近代ハンドボールが大谷氏の手によって伝達されたわけ。大谷氏を「日本ハンドボール界の父」と呼ぶゆえんだ。

その後、大谷氏は昭和8年ごろからしきりと競技団体としてハンドボール（当時は送球と呼称）協会の設立を説かれたが、日時がすぎるばかりであった。ようやく昭和10年陸上競技連盟の中に送球専門委員会が設置され、大谷氏は副委員長となって競技規則の研究から着手された。

昭和13年2月、日本送球協会創立によって副会長となり、戦前のハンドボール界の発展に多大な貢献を寄せられ、戦後は協会顧問として球界に関係されていた。この間、東京高等体育学校教授、東京体育専門学校校長、東京学芸大教授、天理大学体育学部長などを歴任。昭和39年3月、日本体育学会会長を辞任されたのを最後に、すべての公職を去られ、ゆうゆう自適の生活を送られていた。

豪放らいらくな性質で、社交的な方だったが、熱中するとトコトンまでやるといった粘りも大いにあった。日本ハンドボール界は、来年2月、協会創立30年を迎えるが、この30年間の大谷氏の功績はまことに大きく、その記念すべき日に氏の姿が見られなくなったのはかえすがえすも残念なことである。

球界パトロール

職場から愛される よき社員であれ―

～全国実業団チーム代表懇談会にきく

2月3日に大阪で開かれた全国実業団チームの代表者による懇談会で、各代表者から有益な話がとび出した。実業団連盟としては初めての試みだが、なかなかいいアイデアといっていい。この会には古賀会長、渡辺理事長、日本協会から馬場副会長、高嶋理事長と日本ハンドボール界のトップクラスが出席、激しい論戦(?)を展開した。代表者の中には、日ごろのうっぷんを晴らす(?)ような建設的な意見が圧倒的に多かった。

よき社員であれ

それはさておき、古賀会長は最後のしめっくくりで「実業団チームの選手は、まずよき社員であれ」と発言した。このひとこと、実によかった。少なくとも私はそう感じた。代表者の諸君が、この古賀会長の発言をどう受け取ったか知りたいものだ。全国の実業団チームの諸兄諸姉は、おそらく優秀な社員であろうし、職場の同僚からも尊敬されていることだろう。私はそう信じているし、またそうあるべきだ。「私はハンドボールのレギュラーだから…」なんていう気持ちをもっていたら、それはとんだ大間違い。「ハンドボール選手に大事を任すわけにはいかない。練習、試合、遠征に追い回されているから、重要な仕事は与えられない」というケースが、もしあったとしたら、それこそ全く不幸なことだ。「ハンドボールの選手には、なにを任せても大丈夫だ」というようになってもらいたい。たぶん後者の方が多いと思うが…果たしてどうだろう。

同じ職場の連中から愛されるハンドボーラー。責任感の強いハンドボーラー。自分の転務に忠実なハンドボーラー。会社の仕事も、プレーもりっぱにやりとげるハンドボーラー。同僚がハンドボーラーを心よく練習に送り出してくれる環境――こうなってほしいものである。ハンドボーラーが、すべてイニシアチブをとるように前進してもらいたい。この宿題はむずかしいだろうか。二、三年前に大洋デパートの山口社長はこういっていた。「ハンドボールの選手は職場の花形ですよ。第一線に立っている。つまり、〝売り子〟になってお客と接している。気だてはいいし、ハキハキして好感を持たれている。ハンドボールをやらせて、ほんとうによかったと思っている。ひとつには、合宿生活のきびしさからくるのでしょう。規律正しいのに感心した」――。このケースは職場から愛されていることを物語っている。男子も女子もすべてこうあってもらいたい。それが古賀社長のいう「よき社員であれ」ということになる。

女性のたしなみを

東京オリンピックの女子バレーで優勝したニチボー貝塚。このチームのエース、半田百合子さんが結婚したのは、たしか昨年の2月だったと思う。それが1年もしな

欧州式のクラブチーム

熊本女子クラブ

待ち遠しい土曜日の午後

徳富美代子（熊本・大江高校教諭）

広いグラウンドは連日の天気でホコリっぽかった。しかし、秋の空は明るく青く澄んでいた。そのなかで白と赤のコンビのユニホームが心地よくはずんでいた。私たちハンドボール愛好者の念願がやっと実って昨年4月から毎週土曜日に集まって練習を始めるようになった。学校時代、必死に練習したあとのさわやかな疲れがなつかしく、自然集まるようになったわけです。けれども何といっても、仕事がそれぞれあるということで、クラブ員全部が集まるという事は無理であった。仕事のつごうでいちど練習を休むと、次の土曜日までの長いことはいいようもない。練習量は高校時代の半分もないかもしれない。私はいそがしい生活をしているなかで、そのいそがしさといっしょになって過したのではあまりにも味気ないと思っている。生活に潤いを持たせることこそ、現代の生活のやり方ではなかろうか。

いうちに別居―離婚というコースをたどった。週刊誌にはモッテコイのニュースだ。離婚の理由はいろいろと報道されているが、当の半田さんは「私からバレーボールをとったら、なにも残らない」という。全く悲しい話である。少なくともハンドボールの女子の選手は、こんな不心得な人はいないと思う。もしハンドボールの女子選手がこんな境遇になったら「私からハンドボールをとっても、私にはハンドボールで鍛えたファイトが残っている」とぐらい言ってもらいたいネ。結婚してからクッキングをやったり、洋和裁をしたりおけいこごとをやったりしたので間はに合わない。勝つためには練習もいいだろう。だが、練習ばかりしていたのでは、前に述べたように同僚から敬遠される。シーズン中は会社の仕事が終わってから練習。オフシーズンはハンドボールを忘れて洋裁、料理、お花、お茶のおけいことスケジュールを組んでみたらどうだろう。バレーボールの半田さんのようなことが、ハンドボールの選手の間にもしあったとしたら、オーナーたちはがっかりするだろう。〃女性としてのたしなみを忘れない〃ようにがんばってほしい。「ハンドボールの女子選手なら、結婚しても大丈夫」といわれるようにしたいものだ。会社の仕事―練習―試合―遠征―花嫁修業…。とにかくのんびり遊んでいるヒマがないんだから…。

職場に甘えず努力を

サッカーの日本リーグで優勝した東洋工業チーム（広島）は、毎日の練習が退社後の午後5時からという。つまり出勤時から午後5時までは社業に専念しているわけだ。この努力、この熱意には頭が下がる。要は選手の心がけひとつ。ハンドボールの世界でも会社の仕事が終わってから練習しているところが多い。これは当然のことだ。昼から練習しなければ…なんて甘い考えがあるとすれば、このさい東洋工業チームのことを思い出してほしい。会社あってのチームであることを忘れないこと。それでなくても、いまは経済不況の時代。まず第一に会社の仕事を完全にやりとげて、社長以下同僚の信頼を得るように心がけるべきだと思う。職場に甘えず、自ら努力することが自分のチームを強くするにつながる。そうすることが、ハンドボールを発展させる基になる。オーナーの心証をよくすれば、実業団チームの発展は間違いない。そう思いませんか。（幸）

川口（田村紡）が引退

田村紡の主将・川口清子選手（愛知稲沢高出）は2日20日岐阜で行なわれた第5回東海室内選手権を最後に第一線を退いた。

いまの生活にここからここまでがあなたの暇の時間ですよと示してくれるものはなにもない。だから、それを自分で見い出さなければならないと思っている。土曜日の午後！これは決して若い私たちにとって束縛されたくない時間である。だからたぶん、練習時間としては無理なのかもしれないと思ったけれど、いかにせん、その時間は若い笑い声が母校の体育館に集まる。なごやかな練習のあとは恩師北川先生を囲んで話がはずむ。北川先生はここでクラブチームのおもしろさをとくにご説明になる。

渡欧のさい、見てこられたクラブチームが、どんなものであるか私たちに教えてくださる。学生時代あまりにも勝負ということにこだわりすぎて、勝負の中に毎日きびしくすごしてきたが、いまはもうその域を脱している。もちろん、試合をやるからには勝たなければおもしろくないということはわかっている。しかし私たちには勝ち負けよりは、ボールとともにすごしているただその時間だけが大切なのである。ちょうど、昨年夏の全国高校ハンドボール選手権大会が熊本市で開かれたとき、東京のテレビ会社から「底辺を広げよう」という題でハンドボールの取材に来られた。体力向上のためにもスポーツ愛好者がふえることは望ましい。

選手権大会というきびしさがあると同時に、私たちクラブチームのなごやかなふんいきも存在してよいものだと思っている。チームの結成に当たっては熊本市立高OBを中心に尚絅OBまたはそれらの大学時代の友人と範囲を広めている。チーム結成後、初の親善試合が宮崎県都城市であった。土、日曜日を利用し、観光を兼ねた親善試合がたまらなく魅力であった。

遠征の表面的目的はハンドボール技術指導というはっきりとした名目であったが、私自身教えるという形はとりながらも、それらの動きの中からはいろいろ学びとるところが大きかった。脚力のある高校生に真っ正面から対等してずいぶん難儀したがハンドボールを通じて友好を深め、また見聞を広げるという私たちのチームの目的にはじゅうぶん達せられた感じがする。これからも各地に旅行し、ハンドボール仲間との親睦をより深めたいと思っている。

（徳富さんは旧姓西村。熊本市立高校時代のGK。現大洋デパートの西村八千代さんと同期生）

球界パトロール

実業団に時代の流れ……

～則武嬢（元愛知紡主将）チームを去る～

則武のぶ子さん（愛知紡本社秘書室）は青春をハンドボールにかけた1人である。半田高から愛知紡と〝栄光の道〟を歩みつづけた彼女のプレーを覚えているファンも多いはずだ。昭和34年春、健康上の理由で第一線を退いたときに、ハンドボールとの縁は切れるハズであった。それが高校時代からの同僚が残っていたことなどからマネジャー的な立ち場で、昨年の夏までチームと行動をともにしていた。

秘書業に励む則武さん

頼まれればいやな顔のできない人柄と中学、高校、社会人とつねに主将をつとめた人望。それに彼女自身ハンドボールが大好きだったことが競技生活7年、マネジャー生活7年という長いキャリアへ誘い込む大きな原因となっていたようだ。現役から退くと、チームに疎遠になることが多い女子選手にあって彼女のケースは珍しい。『国体を前に突然本社勤務を命ぜられ』『寂しいような気持ちと、もうそろそろこのへんでと思う気持ちが交錯しながら引退しました』。昨年の9月のことである。

女子実業団の初動期から現在の全盛期までの推移を体験しているだけに『わたしたちのころは遠征用の制服もまだなく、なにを着て行くかが、いちばん気になることでした』などとその思い出ばなしは興味深い。愛知紡の初期は選手も一般社員と同じ仕事量で、大会が近ずくと出勤前や昼休みに練習をしたという。

現在はほとんどの実業団チームが全国大会の前は、勤務時間を繰り上げて〝強化練習〟を行なっている。「社員選手」から「選手社員」への傾向が強まってきているのである。『だから責任は以前の選手よりも、いまの方がはるかに重いわけですワ』「どちらがいいだろう？」と聞いたら『時代の流れだから……』と答えた（愚問賢答というべきか）。環境の変化に関係なく、女子チームにつきまとう最大の問題は『チームワークのむずかしさです』。この問題に苦しみ、悩まれた経験は再三ならずという。

それでいながら、第一線を退いて思い出すのは、同僚や後輩たちの顔ばかり。チーム創立10周年を記念してOG、現役全員が一堂に集まる日が待ち遠しいようだ。

フェアプレーの連続

山口岩国市柱野スポーツ少年団顧問

尾川謙輔

（岩国市柱野中学校長）

私たちの岩国市柱野スポーツ少年団は山口、熊本両県ハンドボール協会のお世話で、昨年11月20日に熊本市で「山口―熊本県ハンドボールスポーツ少年団交歓会」を行ないました。このプランは昨年8月に山口県ハンドボール協会から話があり、そこで柱野スポーツ少年団の幹部と相談しました。幹部の方は「いなかの子供たちにとっては、まことに有意義なことなので認める」ということになり、このプランが実現したのです。山口県からは柱野チーム、熊本県からマリスト学園中学が選ばれました。

山口―熊本ハンドボール少年団交歓会

11月21日朝、岩国駅発の列車で熊本市に向かい、22日午前9時からマリスト学園コートで第1回交歓会が開かれました。マリスト学園校長代理のレイモン・ビレイカ先生の激励のことばのあと、私は「ハンドボールは歴史の浅いスポーツであるが、このようなりっぱなスポーツはない。このことを天下に示すため勝敗にこだわらず、スポーツマンシップをじゅうぶんに発揮した試合を展開したい」とあいさつしました。次いで熊本県ハンドボール協会の藤田八郎理事長の歓迎のあいさつがあり、ペナントを交換したあと試合開始。

まず、試合結果をお知らせする。

柱野B　11―5　マリストB
柱野A　17―10　マリストA

二試合とも親善試合にふさわしい熱戦を展開しました。フェアプレーの連続で、ハンドボールのよさを見せてくれました。A・Bチームとも柱野チームが勝ちましたが、3・2・1防御からの速攻がよかったので勝てました。ポストプレーもよかったと思います。マリストはカットイン、ポストプレーがきれいに決まっていました。

試合終了後、記念写真をとり、昼食をともにしながら楽しいひとときをすごしました。中学生の対県試合は学校として行なう場合は経費の面で問題となりますが、スポーツ少年団として行なえば、監督さえじゅうぶんなら心配はありません。対県試合は子供にとっても励みになります。有意義な交歓会でした。

もてるポロシャツ
もちたいポロシャツ
レナウンポロシャツ
ボンネル
RENOWN
レナウン
レナウン工業株式会社
レナウン商事株式会社
東京・大阪・札幌・仙台・名古屋・広島・福岡

チハコバ嬢が来日 日本美術を勉強

ドーブリデン（こんにちは）チハコバさん!!

チェコスロバキアからブラスタ・チハコバ嬢が、3月22日横浜港入港のソ連定期船「ハバロフスク号」で来日した。チハコバさんは日本のハンドボールチームとは縁が深い。一昨年3月、チェコスロバキアで男子7人制世界選手権が開かれたときの日本チームの通訳、そして昨年10月にも女子7人制世界選手権2回戦（日本対チェコスロバキア）がプラハで開かれたとき、正式な通訳ではなかったが、いろいろと日本チームのためにお世話をしてくれた。

チェコスロバキアでいちばん日本語うまい。20歳か21歳ぐらいと思うが、なかなかの美人。一昨年男子がチェコスロバキアに遠征したときに、チハコバ嬢は「私は大学で東洋文学を勉強しています。とくに日本の美術に関心を持っていますので、日本へはぜひ行ってみたいと思っています。それまで大いに貯金しなくては…」と話していた。

その後、チハコバ嬢からときどき航空便が届いた。「チェコスロバキアからパスポートが出た」「日本政府のビザがまだOKにならない」「飛行機で行くか、シベリア経由で行くかまだ決めていない」「早く日本へ行って日本の美術を勉強したい」いと書いてある。2月25日に届いた航空便には「日本政府のビザOK。3月15日プラハを出発。シベリア経由ナホトカから船で横浜に着く。4月に日本大学に入学する。ハンドボールのみなさんによろしく」と書いてあった。

私の社（共同通信社）の宮川毅、工藤幸雄両記者もプラハでチハコバ嬢にお世話になっているので、「彼女が日本へきたら、歓迎大パーティーを開こう」と張り切っている。また静岡県協会理事長の片瀬喜代司氏は「富士山をよく見てもらい、そして日本平を案内する。私の学校（市立清水商高）へもきてもらう」。大阪府の東嘉伸君（三国ヶ丘高校）は「チハコバさんをぜひ大阪へ…。関西の方は私が案内する」。大崎電気の岩崎美栄子さんは「私の車に乗せて箱根。伊豆方面を案内したい」とチハコバ嬢の人気はものすごいもの。22日には大崎電気から渡辺社長、秘書の岩崎美栄子さん、私の3人が出迎えた。（共同通信＝鴛尾武治）

東京都協会だより

第20回都民体育大会春季大会 ハンドボール競技実施要項

▽期日 第1日 6月4日（土）
9時～17時 駒沢第2球技場
第2日 6月5日（日）
9時～17時 〃 第1球技場

▽競技方法
男子 トーナメント
女子 リーグ戦（ただし参加チームが4チーム以上の場合トーナメント）

▽参加資格
①東京都民にして、当該市郡区に昭和41年4月1日以前から在住しているものを原則とするが、チーム編成が困難な場合は例外として在勤表も認める。
②市区町村の教育長または郡の教育出張所長および地区の体育協会長を認めたアマチュア競技者であること。
③児童生徒および学連のものは参加できない。
④同季大会の一つの種目に参加したものは、他の種目に出場できない。
⑤東京都協会に登録してあるチーム。
⑥同一地区に2チーム以上あるときは、予選を行なって1チームを選抜する。

▽参加人数（監督を含めた1チームの人数）監督1人、選手13人
ただし、監督が選手として出場する場合は、選手の中に含まれる。

▽順位決定方法
3位決定戦をやる。

▽申し込み期日と方法
所定の用紙により、各区市教育委員会、教育庁出張所が各3通作成し、昭和41年4月30日（土）までに各区市教育委員会教育長、教育庁出張所名と地区体育協会名の連署をもって東京都教育委員会あて申し込む。

▽監督打ち合わせ日
6月3日（金）午後6時
大崎電気工業株式会社内

▽特に注意する事項
①参加料は徴収しない。
②小雨決行
③抽選は5月16日（月）に東京都協会理事会で行なう。
④出場を希望するチームは、各市区教育委員会および教育庁出張所の体育課でくわしいことを聞いて手続きしてください。

楽書帖

大阪で友の会が発足

鷲尾武治

○…2月の全日本実業団大会に岐阜県のチームである常盤工業（男子）揖斐川電気（女子）が欠場した。昨年の第20回国体（岐阜）に活躍したことはまだ記憶に新しい。経済不況のときだから…と私は私なりに判断した。でも心のどこかにひっかかるものがあるので。A氏にそれとなく聞いてみた。ところがである。事情を聞いてビックリした。「国体が終わったとたん、選手がやめたんだ」という。これには返すことばがなかった。常盤工業の場合、K高校から入社した選手が「国体が終わったから…」と退社したそうだ。揖斐川電気も同じような理由とか。これでは国体を、ハンドボールを食い物にしているといわれても仕方ないのではないか。国体で天皇杯を獲得するため、岐阜県のスポーツ界は他県から移入選手で強化したという話も聞いている。せめてハンドボールは健全な姿でいてほしいと願っていたのだが…。これはショッキングなニュースである。選手たちにも、それ相当の家庭の事情もあっただろうが、発展途上にあるハンドボールからこのようなニュースが出たことは残念でならない。常盤工業も揖斐川電気も、4月から再スタートするーというのでひと安心だが、少なくとも第21回大会（大分県）からはこのことのないようにしてもらいたい。「国体までの生命」「国体が終わったら、サヨーナラ」なんて、あまりカッコのいいものじゃありません。みなさん、そう思いませんか。

○…大阪協会の人から聞いた話。大阪周辺に住むおかあさん方ーといっても昔ハンドボールの選手だった人たちを集めて「ハンドボール友の会」をつくったとか。グッドアイデアである。それでくわしく聞いてみたら、えらく苦労して元選手を捜し、「ハンドボール友の会が○月○日どこどこであるから、お出かけください」と連絡。大阪協会のねらいは、「底辺の拡大はまずおかあさん方から」という趣旨で始めたもの。おかあさんが昔やっていたハンドボールー子供たちはおかあさんのやっていたスポーツならというわけで、この子供たちがハンドボールに関心を持つ。おかあさん方もプレーできる。つまり一石二鳥でもある。

当日集まったおかあさん方は、ちゃんとトレーニングパンツ、短シャツ、アップシューズを持参したとか。そしてこれらのおかあさん方は学生時代ー青春時代を思い出してプレーしたとか。プレーといっても正規のものでなく、ボール遊び程度のもののようだったが、それにしても大阪協会の人たちの努力には頭が下がった。東京都協会では、この報告を聞いて「東京でもやってみようか」と早くも乗り気。

時評

評議員はもっと出席を
そして活発な討論

2月26日に開かれた評議員会を傍聴して気がついたことをひとつ。それは出席評議員の少ないことである。評議員会は日本ハンドボール協会の最高議決機関なのに、どうもお寒い話ではある。昨年も一昨年も出席者は少ない。これはハンドボールの名誉ある伝統？なのだろう。私は全くの第三者として思うのだが、年に一度の定例評議員会には全員が出席してもらいたい。そして執行部のしりをたたいて、さらに前進してもらいたいと思っている。これは私の欲目だろうか。

出席者は東京、神奈川、埼玉、宮城、岡山、和歌山、大阪、三重、実業団、オブザーバーとして岩手、静岡、大分の計10人。あとは委任となっている。各自それぞれ仕事を持っているのだからやむをえないが、自分のスポーツをもっと愛してほしいと思う。わずか一日の会議だ。それも土曜日の午後なのだから、そこをなんとかして出席してもらえないものだろうか。私は毎年そんなことを考えている。

私はハンドボールのほかに、毎年2月上旬に東京で開かれる日本軟式庭球連盟の全国代議員会を傍聴している。この会議は実にりっぱである。というのは46都道府県の代議員がズラリと並ぶ。本部役員は全員、それに学連、高体連の役職についている人も出席する。その数は代議員を合わせて約100人。町村会館の大講堂を貸し切り、午前9時から午後5時まで会議だ。地方代議員の中には、このときとばかり本部役員をとっちめる。これにたいし本部役員は明快な答弁。見ていて気持ちがいい。

私は別に軟式庭球のマネをしろとはいわないが、せめて20都道府県の評議員が出席して、協会執行部といろいろ協議したら、もっといいものが生れると思う。評議員といえば都道府県の会長であり、その地方の事情をよく知っているはず。その人たちのナマの声を聞いてこそ進歩があるのだ。執行部の独走をコントロールするのも評議員の大きな仕事であり、一千万円からの大型予算を組んだ協会の運営をよく監督する仕事もある。

毎年同ジメンバーが出席していては気の毒な話。「評議員会はいつも同じ顔ぶれ。たまには新しい顔ぶれがあってもいいじゃないか」といわれても仕方あるまい。ハンドボールが、さらに大きく前進するためには、全国の評議員がこぞって出席し。大いに討論を重ねてほしい。この会議を取材にきた某記者から「ハンドボールの評議員会は、ずいぶん小じんまりしているんですね」といわれ、ハンドボールを愛する私は冷や汗が出た。ほんとうの話。

（鷲尾武治＝共同通信社）

エールフランス

パリへの直行便 〈北極回り〉

ビジネスでヨーロッパへ旅行されるお客さまのために、エールフランスでは〈北極回り〉にボーイング707ジェット機を就航させております。

北極回り　東京発　午後　10時30分　〈水・金〉
パリ着　翌朝　9時5分

パリを中心として、ヨーロッパの各地にエールフランスの航空網が縦横にひろがっております。またエールフランスでは日本のお客さまのために、機上には日本人スチュワーデスを、ヨーロッパの各主要都市には21名の日本人駐在員を配置し、常にお客さまのお世話をいたしております。なお、南回りは〈月・火・木・土・日〉の午前10時30分パリへ向け就航しております。

AIR FRANCE
LE PLUS GRAND RÉSEAU DU MONDE
à Votre Service

東京都港区赤坂溜池　エールフランスビル　電話（584）1171代表　東京都千代田区日比谷　三井ビル　電話（501）6331代表
大阪市東区大川町淀屋橋　勧銀ビル　電話（202）6326代表　名古屋市中村区広井町3—88　大名古屋ビル　電話（54）0540

近着のＩＨＦ議事録から

世界選手権は3年ごとに
五輪種目で熱心な討議

１９６４年９月

ＩＨＦ（国際ハンドボール連盟）定例総会は二年ごとの偶数年に開催される。前回の総会は１９６４年９月にブダペストで開かれ、日本からは式場会長が代表として出席した。次回総会は１９６６年９月にコペンハーゲン（デンマーク）で開催される。総会はＩＨＦの最高議決機関、かつ最終決定機関である。加盟承認、決算承認、役員選出、分担金の決定と予算の承認、行事計画の決定、大会の割り当て、諸提案の審議決定などを行なうことになっている。ＩＨＦの機関としては、この総会の下に理事会（会長、副会長、理事長、会計、競技委員長、理事７人で構成）、事務局（会長、理事長、会計、理事２人で構成し、理事会の監督の下に総会、理事会で決定されたことを執行する）および競技委員会（委員長１人、委員６人で構成）がある。

前回総会には36加盟国のうち27カ国の代表が出席した。加盟国の大陸別の分布はヨーロッパ22（英国とイタリアを除く全部）アフリカ６（アラブ連合、アルジェリア、モロッコ、チュニジア、セネガル、象牙海岸）米州４（米国、カナダ、アルゼンチン、ブラジル）アジア４（日本、韓国、イスラエル、シリア）となっている。以下ここに前回の総会で論議を呼んだ事項を議事録から拾ってみる。

オリンピック種目について

西ドイツのファイク氏は会長年次報告にかんして発言を求め、まずＩＨＦ会長に感謝のことばを述べ、オリンピック種目にハンドボールを採用させるためとられた努力はすばらしいものであったと述べた。続いてファイク氏は種目への採用のため、さらに新しいステップを踏むよう示唆し、東京でのＩＯＣ総会のとき一層の圧力をかけるためＩＯＣあての決議文を、総会で採択するようにしたいむね提案した。

ファイク氏はこの決議文をＩＯＣにぶっつけるほか、加盟各国協会がそれぞれ力の及ぶ範囲で「各国オリンピック委員会を説得する」。「各国ＩＯＣ委員の支持を取りつける」。「ハンドボール未実施国のＩＯＣ委員と接触を持ち、説得する」。「ＩＯＣおよびＮＯＣ委員をハンドボールの国際試合に招待する」。「ハンドボールの新規実施国へ積極的に指導に出かける」などの措置をＩＨＦが指示するよう要請した。バウマン会長はＩＯＣ決議文を提出するという原則的な問題について投票に付した。満場一致で賛成の返答が得られた。加盟各国にお願いする処置にかんしては、次のＩＨＦ広報で明らかにすることとして了承された。決議文は起草作業のため、総会第二日の最初に提出され、審議の結果次のとおり採択された。

「国際ハンドボール連盟（ＩＨＦ）は１９６４年９月18日、19日ブダペストで総会を開催した。第18回オリンピック夏季大会の開催を前にして、総会はオリンピック実施種目としてハンドボールを採用するよう要請する機会を持つものである。ＩＯＣには１００カ国以上の国が加盟しているが、四大陸にまたがるその半数以上の国においてハンドボールはアマチュアスポーツとして実施されている。アクチブなハンドボール競技人口は約２００万人である。この事実はオリンピック種目として、ハンドボールを採用されたいというわれわれの要求を正当化するものである。

この世界にまたがるハンドボールの発展からみて、人類最大のスポーツの祭典からハンドボールがいつも除外されていることをＩＨＦ総会は不当な屈辱であると見なすものである。よってＩＨＦは根本的にハンドボールの地位が正しく評価され、１９７２年オリンピック大会種目としてハンドボールが採用されるようＩＯＣにたいし、正当かつ根拠ある要求を表明するものである」。

この決議文にたいしてイリック氏（ユーゴ）は、「ユーゴ協会としてはハンドボールと比べてなんらより以上の利点のないスポーツが、オリンピックで堂々と行なわれている。それなのにハンドボールがなお８年も１９７２年まで待たねばならないという妥当な理由をなんら認めることはできないむね強調した。またＩＨＦが種目採用のため今後具体的にどのような手段を取ろうとしているのか、明らかにする必要がある」と述べ、これらの点にかんし会長の説明を求めた。

バウマン会長は「ハンドボールはオリンピック憲章種目としは認められている。しかしそれは必要の場合、採用する任意種目に属しているところからくる困難な状況をじゅうぶん了解いただきたい。さらに１９６８年大会種目はすでに内定されている。このため具体的問題として対処するには、１９７２年大会にいっさいの努力を集中した方がよい」と表明した。またＩＨＦが考えている今後の具体的手段の細部については、会計から報告することとした。

11人制競技委の設置……

ヨルダン氏（スイス）は「11人制ハンドボールの競技委員会を設けてほしい。それは７人制ハンドボールの拡大によって11人制の研究、指導がじゅうぶんでない。会計報告でもわかるように、ＩＨＦの収入の50％は11人制ハンドボールをも実施している国からのものである点を認識いただきたい。ま

た少数派にたいしても、その権利を反映させる可能性が保証されねばならないと思う。たとえばＩＨＦ発行のＰＲパンフレットには11人制ハンドボーのことがないのは非常に遺憾に思う」と提案理由を説明した。

ファイスト氏（ポルトガル）は「ポルトガルもじゅうぶんな数の体育館がない。このためも11人制の方が優位である。ポルトガル協会としても11人制ハンドボールにじゅうぶんな活動の美しさを持たせるよう競技規則を改正すべきであるという意見を持っている。このような意味でスイスの提案に賛成する」むね述べた。ベルカセム氏（アルジェリア）からも「スイス案に全面的賛成の」発言があった。

バウマン会長はこれについて次のように提案した。このスイスの議案は理事会でも長時間討論したが、結果的には別個の競技委員会に賛成できないことになった。しかし次の修正案を提案する。

「競技委員会は従来どおり委員長1人および委員6人で構成する。ただしこの7人のメンバーのうち、少なくとも2人は11人制ハンドボールを公式に実施してる国（ＩＨＦ公式大会に参加した国）に所属するものでなければならない。委員選出方法としては、投票の結果、上位7人中に11人制実施国代表が0人または1人しかいない場合は、その7人のうち下位得票者がそれに続く得票者で11人制実施国の者と代わることとする」。

投票の結果、スイス案賛成5票、反対多数で否決。理事会修正案を賛成21票で採択、規約改正に必要な⅔の多数を得た。

役員はいずれも再任……

会長、副会長、理事長、会計、競技委員長、監事はいずれも満場一致で再任された。

▽会長　ハンス・バウマン（スイス）

▽副会長　シャルル・プチモンゴベール（フランス）ポール・ヘグベルグ（スウェーデン）

▽理事長　アルベール・ワグナー（スイス）

▽会計　マックス・リンケンバーカー（西ドイツ）

▽競技委員長　エミール・ホルル（スイス）

▽監事　シャルル・マルタン（フランス）　カルル・F・ボル（スウェーデン）

理事および競技委員はそれぞれ定員6人にたいし、7人の立候補があり、秘密投票が行なわれた。

▽理事　オルコ（フィンランド）　26票
アッカーマン（オランダ）　24票
ペターセン（デンマーク）　24票
カスパーセン（ノルウェー）　23票
ボセック（チェコ）　22賛
マダラッツ（ハンガリー）　17票
ミリアス（東ドイツ）　16票
（以上当選）
スチプコビッチ（オーストリア）　13票　次点

▽競技委員
クンスト（ルーマニア）　26票
フランデル（ユーゴ）　24票
アーム（デンマーク）　21票
リカール（フランス）　20票
ワドマーク（スウェーデン）19票
ブルマイスター（西ドイツ）　17票
（以上当選）
ヘルマネク（チェコ）14票次点

入国ビザの発給保証について（ソ連提案）

この議案は、ＩＨＦの公式大会開催を引き受ける場合、入国ビザ発給の保証を提出させることとし、もしビザ発給保証が拒否されたときは大会を他の国へ移すことしようとするものである。

ワグナー理事長は、理事会としては本案を採用できないという結論に達したむね説明した。すなわちある国に大会開催を割り当てる場合には、事前に閉催国が全参加者の入国ビザの発給を保証するかどうかを、今までもじゅうぶん検討してから割り当てを行なってきた。しかももしビザ発給の保証があったとしても、実際上大会開催のときになってから政治上の理由により、ビザが発給されないということもありうる。その場合、開催国、ＩＨＦも発給拒否という事実にいかなる影響を及す可能性も持たない。むしろ規約上に明文の規定のない方が善後処理を行なうのにつごうがよい、もちろんそのような場合、大会を他国に移すということもありうる。

ラキチン氏（ソ連）は、ＩＯＣの勧告にふれ「それによればスポーツからいっさいの政治的干渉は排除されるべきであるとされている点を指摘した。また他の国際連盟は、すでに規約にＩＯＣのこの勧告を取り入れているものもあるので、ＩＨＦもこれらにならうべきであると考える」むね述べた。

バウマン会長は「理事会の意見として、政治的配慮からくる条文はいずれにしても、ＩＨＦの規約に取り入れられるべきでないと考えられるので本案件を却下するよう」再度要請した。

投票の結果、賛成は11票しかなく、規約改正に必要な⅔に達しなかったので、本件は否決された。

非加盟国との国際交流について（ソ連提出）

ソ連は非加盟国との国際試合について、各国協会およびその下部組織が、ＩＨＦ非加盟国と今後ＩＨＦの承認なしに親善試合を行なえるよう規約改正を求めた。ワグナー理事長は「ＩＨＦ事務局はいかなる国際行事についても知っていなければならない。またその行事がＩＨＦの発展の精神に沿ったものであれば承認を付与しないということは全く考えられない。理事会として本案件を却下するよう」意見を述べた。投票の結果、賛成は21票で、規約改正に必要な⅔に達しなかったので本案は否決された。

世界選手権は3年ごとに

ワグナー理事長は特に発言を求め「世界選手権大会の開催にかんする審議は本総会の重要なポイントである。またその中でも選手権大会開催の周期を三年にするか二年に据え置くかが本件討論の焦点である」と説明した。そして世界選手権大会の周期を三年と決めるよう、プラハでの理事会の満場一致の決定により、本総会に提案す

るむね述べた。

討論の過程でヘグベルグ氏（スウェーデン）、ワドマーク氏(スウェーデン)、イリック氏(ユーゴ)、ヘルナンデ2氏（スペイン）は三年周期に反対し、前のマドリード総会で採択された二年周期を維持するよう意見をのべた。

その意見は課せられた目的達成のためには――ということは世界的にハンドボールの評価を高めるためには公衆に大きな影響を与える力のある世界選手権大会が二年ごとに開催されるべきであるということであった。たとえばチェコでの決勝戦のときには世界各地から180人以上の記者が集まっており、この世界選手権大会が一般社会に及した力は無視できないとされた。またIHFは財政的にこれらの大会により、著しく強化されるという点を考慮に入れるべきである。ナショナルチームの準備がじゅうぶんできないという意見にたいしては、ナショナルチームの準備というものは継続的なものであるはずであるので賛同できない。世界選手権大会を四年ごとにしか開催しないサッカーの例は加盟国が100カ国以上あるという点で例とならない。16チーム参加の大会方式をとれば、予選試合が困難になるという点はかなり回避できるなどの論点が明らかにされた。

一方、ワグナー理事長、ファイク（西ドイツ）クンスト（ルーマニア）ザイラー(東ドイツ）ペルー氏（フランス）グラシンガー（オーストリア）ヨルダン(スイス)の各氏およびホルル競技委員長が三年周期に賛成の意見をのべた。これら諸氏は、もし大会が二年ごとに行なわれるならば、ナショナルチームの準備がじゅうぶんな時間をかけられなくなる。またその結果、他の親善試合は実行上実施できなくなると指摘した。ハンドボールを始めて新らしく、世界選手権大会にまだ参加してない国との親善試合を行なうことは、ハンドボールの世界的な名声を高め所要の発展をとげるためにぜひ必要なことである。もし世界選手権大会が二年ごと行なわれることとなり、その結果その二年の間ほとんどハンドボールの国際交流を考慮する余裕がなくなるとすれば、それはハンドボールの利益のため決していい結果をもたらすものではない。

現地での親善試合がもたらす公衆への影響力の方が、二年ごとにある遠い一カ国で行なわれる世界選手権大会の影響力より大きいとみられる。また大会が二年ごとに行なわれることになれば、世界選手権大会を毎年行なっているアイスホッケーの例のように、結果的には世界選手権大会にたいする関心が薄くなる。世界チャンピオンの価値そのものが著しくそこなわれることになることも忘れてはならない。さらに男子の世界選手権大会だけでなく、女子の世界選手権大会もある。だから二年ごとの大会ということは加盟協会にとって実行上、毎年世界選手権大会にチームを派遣することになる。また財政上かなりの困難をもたらす。

むしろ世界選手権大会というハンドボールの月桂冠はそれぞれハンドボールの最高の栄誉であるだけに、大きなベースの上にとどめねばならない。しばしば開かれ、じゅうぶんな値打ちなのい世界選手権大会は、そのスポーツにとってマイナスの効果しかない。いっさいの努力は全体の効果を高めるための方向になされるべきである。そのためには世界選手権大会の周期が二年であるのはよくない。最後の問題として、二年の周期で世界選手権大会を開催した場合、つねに大会開催の引き受け者が見当らない。また本会大に16チームを受け入れうる開催者がつねにありうるかどうか疑問がある―などの意見が述べられた。

バウマン会長は「討論の過程でもおわかりいただけたと思うが、理事会も決して容易に世界選手権大会の周期を三年に延長するよう総会に提案することを決めたものでない」と説明した。投票の結果、理事会案に賛成18票反対8票で世界選手権大会の周期を三年とすることに採決された。

1967年男子世界選手権

デンマーク、西ドイツの両協会から、本大会の開催に立候補があった。しかし西ドイツ協会の立候補は他に立候補がない場合という保留条件がついている。デンマーク協会の立候補条件として、デンマークには世界選手権大会の全経費をまかなうだけの入場料収入、つまり観客収容能力の大きな体育館が十分ないので、スウェーデン南部の三体育館を第一次リーグの試合に使用すること、およびそれら体育館での第一次リーグにスウェーデンが予選なしで無条件出場できるようにすることをあげている。ワグナー理事長から「理事会はこの立候補を検討し、原則的にはデンマーク協会の立候補を歓迎する。また原則としてスウェーデン南部の三体育館を利用することにかんしてなんも反対しない。しかしスウェーデンが無条件でこれら三体育館で行なわれる第一次リーグに出場することは、他諸国の利益を害することであるので総会で決定するべき問題である」と説明した。

ペターセン氏（デンマーク）は「デンマークにはじゅうぶんな数の大体育館がないので、スウェーデン南部の三体育館をたよる必要がある。しかしスウェーデンチームがそこで試合をしなければ、財政面で収入が確保されないという理由はない。むしろ地元チームであるスウェーデンが参加できないことになれば、不条理であると判断したものである」とのべた。

これについてバウマン会長は「IHFがデンマークを選ぶことになることは喜びとする。しかしスポーツ上の観点からは、1967年大会にはなんら直接の悪例をもたらすものではない。現在予測できないようなウェートで、将来悪い先例として影響を及ぼすことになることになることを望まない」と述べた。

デンマーク協会の条件にかんし投票の結果、賛成6票、反対12票で却下、デンマーク協会は立候補を取り下げた。

この決定のあと、ヘグベルグ氏「スウェーデン協会が本大会を16チームの受け入れて開催する」と立候補した。投票の結果、1967年男子7人制世界選手権大会はスウェーデン協会に24票の賛成で委嘱された。（翻訳＝日本協会常務理事、境井秀三）

――ベルギー「体育レビュー」誌から――

学校教育として「ハンドボール入門(3)」

ジャン・ピエブー
アンドレ デオム

ゴールキーパー

ゴールキーパーも他の選手と同様にパス、キャッチ、ディフェンスの練習を行ない、また肉体的能力の強化練習も同様に行なう。ただ肉体的能力の強化練習のさいに、腰の関節をしなやかにする練習を行なうよう気をつける。毎日の練習のさいは他の選手とは別の何分かを取り、ゴールキーパーに特有の練習―ロングパス、反射運動の速度の増大など―を行なう。

フィールドプレーヤーと同じ練習をゴールキーパーもできるだけ行なうこととするのは、学校体育で一定のポジションに固定した専門化が好ましくないからである。たとえば、14歳の優秀キーパーは成長して平凡なキーパーになることもある。というのは、成人して身長が固定して初めて標準的なプレーに落ち着くからである。

さらにゴールキーパーはいつでもフィールドプレーにはいっていける能力を持たねばならないからでもある。たとえば、ゴールからボールを出すときとか、チームに退場選手のあるときフィールドに出て自陣を守り、パスを受けるといった活動が必要である。

A、ゴールキーパーの基礎的動作

ゴールキーパーは決して倒れ込みジャンプをしてはならない。横3メートル、高さ2メートルのゴールでは、それは時間のロスである。またボールがゴールポストまたはキーパー自身に当たってはね返ったとき、再びすぐに守備につくことができない。シュートフェイントでジャンプしてしまえば、ほぼ確実に得点される。

他のフィールド選手とほぼ同様の基本姿勢をとること。つまり、軽く曲げた二本の足で立ち、腕を外に開き、ゴールの半分をカバーする。

―足をすべり込ませるジャンプがまれに行なわれる。

―ボールを取るときは、つねに少し前へ出るようにすること。決して後ろにさがってはいけない。

―原則として地面へのシュートは足で止めること。

(1) サイドからシュート

シュート選手が左からはいってくる場合、キーパーは左ゴールポストに位置し、左腕を頭上に伸ばし、右上コーナーへシュートが打たれたときは横におろしてボールをはずす。右下コーナーにシュートが打たれたときは、右足を地面にすべらせボールをはじく。

(2) 正面または少し斜めからのシュート

地面へのシュートにたいしては、キーパーは足を滑らせ、いわゆる滑り込みの姿勢でボールをはじく。手はバウンドシュートを防ぐため足の上方へ持っていく。

高いシュートにたいしてはキーパーは両手でボールを取るか、地面にバウンドさせるかして、できるだけ早くボールをにぎり、速攻反撃に移れるようする。

(3) エリアラインでの横または前への倒れ込みシュート

キーパーはシュート選手に向かって前進し、シュート角度を減じさせるようにする。また自分の体を遮蔽物となるようにする。

B、ロングパス

―2人ずつ向き合い、10メートル、20メートル、30メートルと距離を取り、パスをする。

―ゴールキーパーがボールを持つ。フリースローラインからスタートし、相手ゴールに向け走っている選手にパスする。

―ゴールキーパーはコートに背を向け、ボールを手に持ち、ゴールの中に立つ。他の選手はコートの両サイドフリースローライン上に先頭の者がくるようにして、縦隊を二つつくり待機する。コーチが指で合図したサイドの先頭の選手はスタートする。次にホイッスルによりキーパーは前向きになり、走ってる選手にパスする。

―7人対7人で攻防戦をする。ゴールキーパーがシュートを取ると、すぐサイド選手がスタートする。キーパーはそのどちらにパスする。

C、守備能力と反射運動を高める練習

各人ボールを持って一列縦隊に待機。コーチの合図にしたがって次々にスタートし、シュートする。スタートの間隔をだんだん短くする。出発地点を変え、いろいろのシュートは指示されたコーナに行なうこととし、そのコーナーの指示を左から右、上から下へと順次移していく。またシュートの強さも順次増して行くようにする。

戦術入門

戦術は組み合わせにより、いろいろ複雑な形をとることができる。初歩の段階では基礎技術の完成に最大限の努力を払うこととし、戦術については原則的なことのみを習得するようするのがよいと思われる。戦術の練習は選手が一応の基礎技術に習熟し、ボールの取り扱いに注意する必要がなくなったあとでなければ、始めるこ

とができない。選手がいろいろのコンビネーションに注意を向けることができるようになるのは、ボールを完全にコントロールできるようになってからである。そのコンビネーションも、それにたづさわる選手各人がじゅうぶんに技術を身につけていなければできない。

チームがボールを得たときは選手全員が攻撃選手となる。また相手にボールを奪われたときは選手全員が守備選手となり、ゴールキーパーを支援していっさいのシュートに対抗しなければならない。

以下にここで述べるいろいろの戦術は、選手の持っている技術の程度、運動能力のレベルに応じてやらなければならない。また相手のレベルもじゅうぶん計算して適用する。ある一つの戦術は、相手がその戦術に対抗する反撃方法を持たないかぎりできない。相手の行動がこちらの戦術に正当に対抗するものであるときは、新しい戦術を採用できるだけの柔軟性を持たねばならない。

ここでは何種類かのゾーンディフェンスと攻撃システムを選手のポジションによって説明する。マンシーマン。ディフェンスについて、それをジュニア選手に適用するのは、あまりにも疲労度が激しくまた複雑であるのでここではふれない。またマンツーマンディフェンスはおとなのクラブチームの場合でも、試合の終了直前に相手が小差でリードしてボールを渡さないようにしていることがわかったときの対抗手断として例外的な場合しか使われるものでない。なおこのストーリングはスポーツ教育の精神に反するものであるから、学校生徒は決してやるべきではない。

A、ディフェンス

0―6ゾーンディフェンス

選手6人はゴールエリアに沿って円周状に位置する。ボールを持っている相手選手に最も近い選手が前進し、そのボールを持っている相手をアタックする。一方他の同チーム選手は、アタックに前進した選手の穴を埋めるため横にすべる。ボールが別の相手選手に移ったときは、すぐ元の位置に戻る。そしてボールを新たに持った相手にたいし、別の選手が前進しアタックする。フリースローラインより外へ前進してアタックすることは少ない。

この方式は相手がロングシュート選手を持たない場合しか採用できない。この方式はむしろ年少選手が使うのに適している。しかし、エリアラインからのシュートを防ぐには最大の効力がある。またじゅうぶんに開いたプレーを行なわせるにはよい方式である。

1―5ゾーンディフェンス

最もよく使われる方式である。守備選手1人がフリースローラインのほぼ中央部の地点に位置につく。そして相手のロングシュート選手をマークし、またロングシュート選手と自分の後ろにいる相手選手の間のパスをカットするようにする。他の守備選手はエリアラインに沿って散ばる。このエリアライン上に分散した守備選手も、自分の前の相手がボールを持ったときは前進してアタックする。そのとき中央部に前進した守備位置にいた選手は、アタックに前進した後方味方選手の守備位置の方へすべる。同じ側のサイド守備位置の選手も、自分の相手のサイドの攻撃選手から目を離すことなく、同様に前進アタックした味方選手の穴を埋めるよう横に移動する。

この方式によれば、エリアラインの安全を最大限に確保しながら、相手チームの1人または2人のロングシュート選手を押えることができる。この方式は動きの早い選手または身長の高い選手を有する場合、その選手を中央部前進位置につかせて行なわれる。また相手のロングシュート選手がじゅうぶんなシュート角度を持ったときに効果がある。

2―4ゾーンディフェンス

フリースローラインの直線部分の両端へ2人の守備選手が立ち、相手の後方攻撃選手を間断なくアタックする。その他の4人の守備選手はエリアラインに沿って位置し、ボールが左へ右へ移動するにしたがって早く移動し、ブロック守備を実施する。この方式によれば、ロングシュート選手を押えるのは容易だが、エリアラインを攻撃選手にあけておく危険がふえるので、エリアラインにじゅうぶん注意する必要がある。この方式は相手が強力なシュート選手を持つ場合とかコートが非常に狭く（横18メートル以下）サイドでのプレーができない場合に利用するのがよい。またこの方式を用いているときは速攻反撃がやりやすい。

3―3ゾーンディフェンス

この方式では3人が後方エリアラインに残り3人が前方フリースローラインに沿って位置する。

この方式をとった場合、選手の行動が速いことが要求され、また守備位置も固定してはいけない。両サイドの前方へ出ている選手は、ボールが自分のサイドへきたとき、または相手選手が中へすべり込んだときにはエリアラインまで後退しなければならない。

この方式をとるのは、守備よりむしろ速攻反撃をねらっている場合が多い。またこの方式はロングシュートにたいしてはじゅうぶん防備されているが、ラインぎわのシュートにたいしては非常に弱くなる。しかし攻撃能力の弱いチームにたいする場合に、この方式を利用することができる。

B、攻撃システム

ゾーン攻撃を行なう場合、ボールはできるだけ早く一方のサイドから他方のサイドへ回す。また選手はボールを持って移動してはいけない。――必ずパスで移動すること。またサイド選手はできるだけサイドライン近くにいること。そしてサイド選手がコーナーから離れたときは代わりの者が必ずサイドにはいる。選手各人は自分のポジションに静止してはいけない。絶えず移動し、シュートのフェイント、スタートのフェイントで相手のマークをはずすようにする。また腕はいつもシュートが打てるような位置に準備しておくこと。

以下に述べる攻撃システムの選手配置は決して固定的なものとしては適用してならない。この点に注意すること。

3―3攻撃システム

このシステムは最も標準的なシステムである。エリアラインに沿って3人の前方選手が位置する。（2人は両サイドに、1人はセンターに）。フリースローラインの円周状部分の中央から少し外寄りに左右2人の後方選手が位置する。後方中央部のフリースローラインから少しさがった位置に後方の中央選手が立つ。後方の中央選

手は自軍攻撃動作のカバーとしての役割りを果たすとともに、各選手にプレーを割り振る。各後方選手は自分でシュートを打つか、シュートフェイントにより守備選手を引きつけておいて、前方サイド選手または前方センター選手にパスを送る。前方選手は絶えず動き回りながら、後方選手からパスを受け自分でシュートを打つか、シュートを打てないときはボールを後方選手に返すかする。

強力なシュートを打てる選手は後方選手のポジションにはいる。他の選手のいちばん後ろに位置する後方の中央選手は、ボールが相手に移ったとき、迅速に後退し守備につき、安全を確保する役割りを負う。

4－2攻撃システム

4人がエリアラインに沿って位置し、2人がゴールからほぼ12メートルの後方に位置する。前方4選手は活発に動き回り、後方選手がロングシュートを打てるような守備選手をブロック（封鎖）したり、またいつでもシュートの打てる姿勢でシュートポジションにはいったりする。後方2選手は自分でロングシュートを打つか、またシュートフェイントにより守備選手を前方におびき出しておいて前方選手にスパを送るかする。

このシステムはすぐれたシュート力があり、身長の高い2人の選手を有するときに用いる。また相手がエリアラインの守備に弱いときとか、3－3ディフェンスをとっているときにもこの方式をとること。しかしボールが相手に移ったときの2選手だけである。

2－4攻撃システム

4人がフリースローラインに沿って位置し、2人が前方エリアラインの彎曲部分を動き回る。この方式はコートが狭い場合（横18メートル以下）適用するのがいい。しかしこの方式をとって成功するためには、フリースローラインから強力なシュートが打て、かつまたできれば高い身長を有する選手4人を持っている必要がある。またこの方式の場合には相手に速攻反撃をかけられることが少ない。

このシステムの変形として片側（左）に4人の攻撃選手が集まり、反対側（右）に2人の攻撃選手という配置をとる方式がある。この方式をとったとき、初めのある期間には片方のサイドでは相手守備選手を上回る攻撃選手がいることになる。そのとき選手の1人だけは、サイドのエリアラインに位置してシュートに備える。各攻撃選手がじゅうぶんに相手をおびやかしていれば、つねに1人は相手がなくノーマークのとなるはずである。この守備選手を上回る数の攻撃選手がいる状況をつくり出すのは、前方中央選手および後方の中央選手が移動してつくり出すのである。

C、速攻反撃

年小選手によくあることだが、速攻反撃を計画的に行なおうとしてはいけない。速攻反撃にさいし、キーパーからのロングパスを受けるのは守備に自陣へ戻っていなかった選手ではなく、むしろ守備に戻っていて、ボールがカットされた瞬間スタートをかけ飛び出した選手でなければならない。スタートをかけるのはキーパーがボールを取ってからでなく、相手選手がシュートを開始した瞬間である。またできれば、サイド選手が飛び出すのが好ましい。キーパーはこのロングパスをじゅうぶん練習しておく必要がある。3－3ディフェンスまたは4－2ディフェンスをとっているときは、この速攻反撃がかけやすい。

D、戦術練習例

（1） 10メートルの間隔でX、Yの2列縦隊。先頭の位置はエリアラインから7～8メートル。守備選手Bがエリアラインの曲線部に立つ。攻撃選手Xはドリブルでスタート、斜めにAに向け進行し、Aにふれることなく Aに背を向け、Aをブロック（封鎖）する。両手でボールを後ろのYにパスする。Yはそのときすでにスタートしており、今度はパスを受けBをブロックするため進入する。Yは同様にして次のXにパスする。Yの走っている間にXはYの列の後尾へ戻る。順次同様のことを行なう。

（2） 1と同じ、ただしXはAと代わり、いちど守備を行なってからY列の後尾につく。

（3） 守備2人と攻撃3人。守備選手A、Bはエリアラインの曲線部に立つ。攻撃選手a、bはA Bに対応する位置につく。攻撃選手Cはaの付近からドリブルでスタートし、Bのブロックに向かう Bをブロックして両手で腰からbはパスを受け、Aをブロックに行き、aにボールをパス。aはBをブロックに行き、Cにパス。以下繰り返す。

（4） 守備3人と攻撃3人。3と同じ要領で、CはBをブロックに行き、bにボールをパスする。三番目の守備選手Cはcをマークする選手でcのあとを追って行く。パスを受けたbはドリブルでAをブロックに行き、その後ろからBがついて行く。bはaにパスし、aはcをブロックに行く。

（5） 守備選手4人がフリースローラインの外に立つ。攻撃選手も4人が中にはいり、エリアーラインに沿って位置し、a、b2人は外に立つ守備選手A、Bの前へそれぞれ位置する。aはボールを持ってBに向かって進み、Bをブロックし、ボールをbにパスする bはaがスタートしたとき、コートの外側へ動くフェイントをかけ、次に中へはいっていく。bはaからボールを受け、シュートするか、前方攻撃選手のだれかにパスをするかする。

（6） 5と同じ練習を攻撃選手aがボールを持たないで、bが持つようにして行なう。bが外側へ動くフェイントをかけると同時にaはスタートして、Bをブロックする。bはボールを持ってコート中側へはいり、シュートするか、エリアラインの自軍選手にパスする。

（7） 攻撃選手3人と守備選手1人がフリースローラインに沿って位置する。（攻撃選手は左からa、b、c守備選手Bは中央の攻撃選手bの前に立つ）。aはBのブロックに向かう。bはボールをっ掏て、cの方へスタートするフェイントをかけてから、ドリブルしてaの方へ進み、シュートする。

（完） （翻訳＝境井秀二）

見事なフリースロー ユニオンの勝利を呼ぶ

ひとつのフリースローも粗末にできない耳よりなニュース。これは昨年行なわれたウラヒヤ国際選手権の準決勝でハンブルグ（西ドイツ）のユニオン03とアドミラ・ウィートン（オーストリア）が顔を合わせた。この試合、ウィーンが勝ったと思われた。というのは、ユニオンは1点リードされ、ウィーンの厚い防御に妨げられれて時間は刻々すぎていく。ユニオンはウィーンの必死の防御で今一歩というところで反則されてしまった。レフェリーの笛のあった直後、タイム・キーパーの笛が鳴り、ノータイムのフリースロー。ウィーンは6人の守備者をフリースローを投げる選手の前に集めて厚い壁を作った。このフリースローは、だれもが成功するとは思っていない。したがってウィーンの勝利は確実。

このとき、ユニオンはクリスタ・ミルターを起用し、彼女の右腕にすべてを托した。ミルターはからだを右に倒し、ウィーンの厚い壁の横からゴールの右コーナーを割るシュートを放ち、見事ゴールイン。これで同点。あとは大会規定によるトスによる決定を待つばかり。これにもミルターが勝ち、決勝に進出することとなった。まことに貴重な一投である。

下の写真はミルターがシュートを放す瞬間。上はミルターがトスに勝ち、ユニオン決勝進出が決まった瞬間。

フランスなど代表決まる
第6回男子7人制世界選手権

第6回男子7人制ハンドボール世界選手権大会は来年1月12日からスウェーデンで開かれる。これに出場するヨーロッパチームは3月31日までに予選を終了することになっているが、近着のレキップ紙（フランス）西ドイツ紙から最近の成績を収録した。これによるとB組は西ドイツ、スイス、E組はハンガリー、フランスが界選手権出場権を獲得した。

▽B組

西ドイツ 18－13 オランダ

スイス 31－14 ベルギー

この結果、①西ドイツ②フランス③ベルギー④オランダ

▽E組

スペイン 14（7－6 7－8）14 フランス 引き分け

ハンガリー 24（10－7 14－8）15 スペイン

フランス 10（5－8 5－2）10 ハンガリー 引き分け

ハンガリー 26（13－10 13－7）17 スペイン

フランス 22（13－6 9－6）12 スペイン

残りのハンガリー対フランス戦は3月19日ブダペストで行なわれるが、スペインがすでに4戦3敗1引き分けのため、最終戦を待たずにハンガリー、フランスが世界選手権出場が決まった。

レベルの高い北アフリカ
モロッコは学校体育に採用

　アフリカ大陸は第二次世界大戦後、とくに1960年代になってから多くの独立国がナショナリズムによって生れたことは周知のとおりである。これらの多くの独立国に、ハンドボールが普及しつつある。現在、IHF（国際ハンドボール連盟）に加入しているのはわずか6カ国である。このほか多くの国々にハンドボールが取り入れられていることが明らかになっている。これらの諸国はマダガスカル杯争奪戦もしくはアラブ諸国間試合・アフリカ大会などで、国際試合を行なうようになってきた。

　黒い大陸で現在、IHFに加入しているのはアラブ連合、アルジェリア、象牙海岸、モロッコ、セネガル、チュニジアといった地中海沿岸の諸国および旧フランス植民地から独立した国々が主体となっている。これらの諸国が中心となってアフリカ大陸のハンドボールをリードしている。なかでも有力なのはアラブ連合、チュニジア、モロッコの三国である。

　これらの諸国に次いでダオーメ、マリでかなり発展している。さらにリビア、モーリタニア、ザンビア、ギニア、シエラレオネ、ナイジェリア、オートボルタ、コンゴ、ケニア、スーダン、エチオピア、マダガスカル、北ローデシアの諸国でもハンドボールをやっている。これらを見ても旧フランス領植民地が多く、アフリカ大陸におけるハンドボール発展の基礎を固めたのは、ほかならぬフランスであることがはっきりしよう。

　現在のところ、レベルは北アフリカがぐんと高いところにあるのは当然。これら諸国にはかなりの伝統もあり、また地理的な関係も多くの試合を経験していることにもよる。アラブ連合、アルジェリア、モロッコ、セネガル、チュニジアなどの諸国はすでにかなりの試合をヨーロッパチームとの間で行なっている。ここでは先進国の一つ、モロッコのようすをお話しよう。

ほとんどが屋外

　モロッコは150ほどのチームを持っている。学校体育にも採り入れている関係上、さらに多くのチームがあると思う。現在はっきりしているのは150チーム。これらのチームが32の国内連盟をつくっている。東西両地域に分かれ、それぞれベストチーム、8チームでリーグ戦を行なっている。この下にまた8チームから成るリーグ戦がある。会長はかつてフランスでハンドボール競技をやった42歳のムリン・モハメッド博士である。大きな進歩こそないが、着実な歩みでモロッコのハンドボールは発展している。チーム数も増加の傾向にあり、5年後には300のチームになるだろうといわれている。

　ハンドボールはモロッコでは、「コラット・エル・ヤド」と呼ばれている。コラットが手、エル・ヤドがボールを意味している。日中は非常に暑いので、ほとんどの試合が夕方行なわれているのはお国柄を偲ばせよう。モロッコで問題になっているのは競技場である。フランスが指導しているアフリカ諸国は、すべて7人制を採用しているのは周知のとおりである。これらの競技はほとんど屋外で行なわれている。モロッコには屋内競技場は一つしかなく、しかもその収容人員は1600人といった小さなもの。そこで大試合は屋外でやっている。グラウンドはアスファルト、砂、泥、芝などいろいろのものが使用されている。

　上級リーグには2000ないし3000観客が集まる。過日行なわれたフランスとの国際試合に4000人の観衆が集まった。以上のようにモロッコをはじめとするアフリカ諸国のハンドボールは、まだ発展途上というよりもやっと誕生したという表現のほうがピッタリする。しかしながら5年、10年あるいは20年たつと、必ず一大勢力となるだろう。

　第1回アフリカ・競技大会は1965年7月にコンゴのブラザビルで開かれた。この大会には新興アフリカの多くの国が参加した。期間は7月18日から25日までの1週間。競技種目はハンドボール、バスケットボール、バレーボール、サッカー、水泳、陸上、ボクシング、柔道、テニス、自転車の10種目。

　総合優勝は17の金メダルを得たアラブ連合である。次いでナイジェリア、象牙海岸、ケニア、アルジェリア、ガーナの順であった。

　ハンドボールはアラブ連合、象牙海岸、チュニジア、マダガスカル、カメルーン、セネガル、ダオーメの7カ国が参加した。いろいろな理由でモロッコが不参加だったのが大いに惜しまれている。きびしい暑さのなかで熱戦が展開された。アラブ連合とチュニジアが優勝候補にあげられていた。この両チームは準決勝で顔を合わせ、チュニジアがほぼ勝利を目前にしながら、タイムアップ寸前にアラブ連合に連続2ゴールを許して惜しも敗れた。

　試合は7カ国をA、B両グループに分けてリーグ戦。そのリーグの同一順位チームで1—2戦、3—4位戦を行なった。

〔Aグループ〕
チュニジア　14—2　セネガル
象牙海岸　15—14　カメルーン
象牙海岸　10—10　セネガル
カメルーン　13—12　チュニジア
チュニジア　7—7　象牙海岸
セネガル　14—14　カメルーン
（順位）①象牙海岸②チュニジア③カメルーン④セネガル

〔Bグループ〕
アラブ連合　17—4　マダガスカル
マダガスカル　24—14　ダオーメ
アラブ連合　27—10　ダオーメ
（順位）①アラブ連合②マダガスカル③ダオーメ

▽準決勝
象牙海岸　15—14　マダガスカル
アラブ連合　7—6　チュニジア

▽下位順位決定戦
カメルーン　21—4　ダオーメ
セネガル　18—15　ダオーメ

▽三位決定戦
チュニジア　14—10　マダガスカル

▽決勝戦
アラブ連合　22—7　象牙海岸
（順位）①アラブ連合②象牙海岸③チュニジア④マダガスカル⑤カメルーン⑥セネガル⑦ダオーメ

実業団連盟だより

◎定例理事会議事録

本連盟は規約に基づいて全日本実業団選手権大会開催時の2月3日午後6時から大阪市で定例理事会を開きました。

▽出席者

会長＝古賀和佐雄（千代田印刷機製造株式会社社長）、副会長＝田村正衛（田村紡績社長）、理事長＝渡辺和美（大崎電気社長）、常務理事＝数原洋二（三菱鉛筆社長）、小杉仁造（愛知紡績社長＝代理として亀岡成昌監督が出席）理事＝宗形年閫（宗形製作所社長＝代理として宗形守敏専務が出席）以上6人。

▽オブザーバー

馬場太郎（日本協会副会長）平川憲甫（大阪府実業団連盟理事長）河内文雄（愛知県実業団連盟理事長）以上3人。

▽議事

1、第7回全日本実業団選手権大会の開催地について

愛知県実業団連盟から「2月上旬の土曜日か日曜日に第1日を持ってきてくれれば、引き受けてもいい。それに愛知県下には現在7チームあり、来年度はさらに3チームふえる。これらのチームにも全日本実業団選手権大会出場のチャンスを与えたい。それが底辺を広げることになる。日曜日を第1日とすれば観客を動員できる。会場は愛知県体育館（2面）金山体育館（1面）を予約した。3面でたりないときは、高校の体育館を借りる。」と名古屋市開催を強く要望した。

大阪府実業団連盟から「大阪連盟は設立されてまもないが、もう一度大阪市で開きたい。」と要望があった。渡辺理事長から「ハンドボールはオリンピック種目にはいったことでもあり、ジャーナリストへの啓蒙も考え、このさい東京、名古屋、大阪の大都市で開いた方が効果的である。」と補足し、協議した結果、名古屋市に決定した。期日は昭和42年2月5日（日曜）から9日までの予定。（近く愛知県ハンドボール協会、愛知県実業団ハンドボール連盟へ文書でお願いする。）

2、女子の日本リーグについて

田村副会長　日本リーグを開催した場合、全日本総合選手権、国体、全日本選抜選手権大会の意味がなくなる。これが底辺拡大に役立つかどうか。日本リーグ出場チームと、そうでないチームとの間に断層ができる。レベルアップにはなるが、これで果たしていいのかどうか。それに大洋デパートは熊本市にある。試合のたびに熊本市まで行くのはたいへんなことと思う。日本リーグ開催によって試合数が減るのは賛成である。1年中、試合に追い駆けられるのは会社としてもよくない。やる以上は日本リーグに権威を持たなければいけない。

渡辺理事長　全日本総合選手権、国体、全日本選抜選手権、全日本実業団選手権、それに国体の県予選、ブロック予選、ブロックの選手権、県の選手権と日数が多い。そこへ日本リーグをやるのは、むずかしい思う。それにいまは経済不況のときでもある。しかしハンドボールの底辺拡大、実業団チーム育成のためにやった方がいい。やる以上は権威のあるものとしたい。それには各オーナーの理解がないとできない。私の案は日本リーグの場合、とりあえず4チームの総当たり2回戦としたい。全日本実業団選手権のベスト4をこれに当て、春、秋の2回に分けて行なう。つまり春に各チーム3試合、秋に3試合の計6試合とする。最下位チームと全日本実業団選手権大会の優勝チームと入れ替え戦を行なう。

亀岡成昌氏　日本リーグの場合、全日本総合選手権、国体、全日本選抜選手権、全日本実業団選手権の4大会のうち、ひとつぐらいは遠慮した方がいい。春は5月ごろがいいが、秋は時期をいつにするかむずかしい。

数原常務理事　日本リーグに出場した4チームが全日本実業団選手権に出ないと、他のチームも優勝のチャンスがある。こうなると、社内におけるハンドボールへの関心も高まり、底辺拡大の基ともなる。

3、その他

各都道府県協会が日本協会に納める分担金は現行の1万円を5万円にして、これを日本協会の財源とする。

◎代表者懇談会報告

2月3日正午から大阪府立体育館食堂で、実業団選手権大会に出場チームの代表者を集めて懇談会を開いた。これは各チームからの要望を聞くために開いたもので、有意義を会合でした。各チーム代表者のおもな発言要旨次のとおりです。

田中滋章氏（タヨシ産業）第7回大会（42年2月）を名古屋で開きたい。すでに書面で申し入れてある。愛知県下には現在7チームあり、ことし4月に3チームふえる予定。これらのチームを1人前のチームにするため、全日本実業団選手権大会に出場させてやりたい。クラブ組織のところが多いので、会社から認められるようにしたい。そのためにはぜひ名古屋市

役員名簿

（昭41．1．20日現在）

役職	氏名	所属
会長	古賀和佐雄	千代田印刷機製造社長
副会長	田村正衛	田村紡績社長
	岡野正実	岡野バルブ製造社長
	山岡憲一	東京重機工業社長
理事長	渡辺和美	大崎電気工業社長
常務理事	小杉仁造	愛知紡績社長
	山口亀鶴	株式会社太洋 社長
	数原洋二	三菱鉛筆社長
	須崎潔	揖斐川電気工業社長
監事	山内清次	常盤工業社長
	鈴木達雄	レナウン工業社長
理事	古賀健一郎	千代田印刷製造専務
	黒川正雄	レナウン工業人事部長
	宗形年閫	宗形製作所社長
	河内文雄	三菱重工業名古屋
	三谷賢治	自衛隊第32普通科連隊
	佐藤道治	住友化学菊本製造所

◎このほか、本田技研、丸紅飯田、日東電気工業、京都市役所、盛岡市役所、三菱レイヨン大竹の責任者に理事就任を要請しております。

で開いて、これらのチームを出場させ、自信と希望を持たせたい。これが底辺拡充に役立つと思う。愛知県実業団連盟としては愛知県協会に協力し、自信を持って受け入れ体制ができているので、名古屋市で開いてもらいたい。

宗形守敏氏（宗形製作所）実業団チームの多い地区を優先にするか、普及のために地方回りにするかこの点を研究されたい。大阪府実業団連盟はやっと軌道に乗ってきた。近く近畿ブロック連盟をつくる計画だ。全日本実業団選手権大会の期日は、マスコミを動員できる時機をよく考えてほしい。とにかくPR不足だと思う。

平川憲甫氏（宗形製作所）ぜひ来年も大阪市で全日本実業団選手権大会をやってほしい。大阪府下での認識が高まっているときだけにお願いしたい。

横山昭氏（千代田印刷機）①1チームでも多く参加することに意義がある。それに1試合だけで終わってしまうのはものたりない。少なくても2試合、できれば3試合ぐらいできるような敗者復活戦制度を採用したらどうか。1試合でも多くやることが、レベルアップにつながる。②大会登録選手をしぼらないでほしい、大会前日までメンバーの変更を認めてほしい。会社の仕事の都合で参加できない人も出てくる。③できることなら、大崎電気のようなチームを地方に派遣して指導してほしい。

佐々木義方氏（三菱レイヨン）①山口県では全日本実業団選手権大会に出場するため予選をやっている。予選で勝つと会社が大会出場を認めてくれる。出場権をとってから出場する実情です。②実業団連盟が独立したので国体の一般の部の出場チームをふやしてほしい。③大会の参加申込書をもっと早く送ってほしい。④私たちはテレビ放送を見てハンドボールを研究している。もっと数多くやってほしい。

青木　茂氏（日本鋼管）①予選をやって出場権を取ると、会社もOKしてくれる。予選または推薦制度にしたらどうか。②リーグ戦にしたらどうか。

古賀会長　まず実業団チームの選手は、まず「よき社員である」ことがだいじだ。これを自覚してハンドボールのために努力してほしい。

渡辺理事長　①全日本実業団選手権大会の男子を16チームに絞れば、予選リーグ、決勝リーグができる。この場合、大会期間は6日間となる。だが、いまはチームをふやすときなので、この制度はむずかしい。敗者復活戦の方法もあるが、大いに研究してみる。男子の場合、32チーム以上になると、いまの方法では無理だ。この場合、ブロックの予選を考えなくてはいけない。将来はブロック予選の方向に持っていきたい。②前年度の男子ベスト4を次の大会でリーグ戦をやらせる。そしてトーナメントの優勝チームとリーグ戦の最下位チームと入れ替え戦をやらせる方法を考えている。将来は男女ともこの方法でいきたいと思っている。③連盟としては、連盟自体を強化して地方育成のために努力したい。④第6回大会から連盟から優勝杯（持ち回り）を出す。2位から4位までは渡し切りのカップまたはトロフィーを出す。優勝チームには翌年レプリカを渡す。

高嶋　洌氏（日本協会理事長）①大会登録選手を絞らないと、大会運営の面で困る。たとえば、11人と30人とでは宿舎その他で支障があるからだ。しかし検討してみましょう。②国体の参加人員はことしの第21回国体（大分県）まで現行のままです。大分国体以後は現在の32から46都道府県の参加にしたい。この場合、ダブルヘッダーになる。

▽出席者

古賀会長、渡辺理事長、馬場日本協会副会長、高嶋同理事長、村田大阪府協会常任理事、池田鉄哉（三菱鉛筆）、横山昭（千代田印刷機）、宗形守敏（宗形製作所）平川憲甫（宗形製作所）、亀岡成昌（愛知紡）、鈴木義男（田村紡）、村越盛一（秋田市農業共済組合）、青木茂（日本鋼管）、田中滋章（タヨシ産業）、中浜大輔（大同製鋼）、田中登司治（京都信用金庫）勝田正雄（大阪ガス）、溝渕芳夫（美津濃）、新山五一（三井石油）、佐々木 義方（三菱レイヨン）

日本協会理事会

日本ハンドボール協会は評議員会を前に、2月19日午後1時30分から東京・代々木の岸記念体育会館で理事会を開いた。（協議事項は評議員と同じ）

▽出席者　馬場太郎、高嶋洌、加藤裕策、藤本強、安藤純光、松本重雄、徳永陸繁、増田一郎、境井秀三、青木近衛、若崎重富、佐野和夫、的場益雄、岡村昭二、栗脇嶷（愛知）、井田万三郎（埼玉）、渡辺五郎兵衛（新潟）、森田正英（奈良）、王城修（京都）、田辺治（学連）、村田弘（大阪）、熊田栄一（福島）、藤田八郎（熊本）、藤田信義（山口）、清水正（山梨）、山田計（大阪）、町田歳雄（群馬）＝27人

▽オブザーバー　磯部浩（茨城）

移転通知

共同通信社は3月27日から左記へ移転しました。

東京都港区赤坂葵町二番地

電話（五八四）四一一〇（大代表）

伊藤直氏、全日空機で遭難

慶大OBの伊藤直氏（中井株式会社営業部長代理・昭和23年卒業）は、さる2月4日の全日本空輸墜落事故のため死去されました。

葬儀は遺体未収容のまま、五七日忌に当たる3月12日正午から渋谷区神宮前六ノ二五ノ一二、長泉寺で行なわれました。同氏は終戦直後の関東学生リーグで名FW（11人制）として活躍した人。謹しんで同氏のごめい福を祈ります。

百武忠明君（中大主将）急死

3月22日倉敷市で合宿練習中、心臓マヒで急死されました。21歳。同夜、行政解剖した結果、異常体質であることがわかりました。24日火葬し、同夜帰京しました。

百武君は神代高（東京）時代から名プレーヤーとして活躍し、中大進学後は中心選手として関東学生リーグで活躍、ことしキャップテンに選ばれた。謹しんで百武君のごめい福を祈ります。

（中大合宿所）東京都北多摩郡久留米町門前二九八。

（田中秀夫監督宅）東京都品川区中延四—八二（電話 七八二—四九八二）

地方だより

名古屋で小学校指導会

◇第16回名古屋市小学校指導会・中学校新人大会（2月5日、6日、13日、名古屋市立桜田中）

▼小学男子1回戦
矢田B　8－2　桜　B
山田B　10－4　川原B

▽2回戦
川原A　5－3　矢田B
児　玉　8－3　山田A
矢田A　4－2　山田B
桜　A　5－2　正　木

▽準決勝
児　玉　6－4　川原A
矢田A　15－1　桜　A

▽決勝
矢田A　5－3　児　玉

▼小学女子1回戦
児　玉　不戦勝　名　北
川原B　2－0　矢　田

▽準決勝
児　玉　3－0　川原A
川原B　7－0　山　田

▽決勝
川原B　3－1　児　玉

▼中学男子1回戦
大　江　18－1　明　豊
前　津　21－4　あずま
守　西　9－8　沢　上
鳴　海　19－3　新　郊
笹　島　13－6　菊　井
長　良　10－7　守　山
桜　田　10－7　港　北
港　南　16－1　本　宿

▽準々決勝
前　津　5－4　大　江
鳴　海　10－8　守　西
笹　島　21－7　長　良
港　南　24－4　桜　田

▽準決勝
鳴　海　8－6　前　津
笹　島　8－7　港　南

▽決勝
笹　島　15－7　鳴　海

▼中学女子1回戦
港　南　7－6　あずま
瑞穂丘　3－2　桜　田
守　西　3－2　鳴　海

▽準決勝
守　山　11－3　港　南
瑞穂丘　4－0　守　西

▽決勝
守　山　11－4　瑞穂丘

なお、この大会は昭和25年から行なわれている。

仙台でハンドボール祭

◇第1回宮城県民ハンドボール祭（1月23日・県スポーツセンター）

高校女子選抜　25（10－6、15－2）8　一般女子
高校男子新人選抜　37（23－4、14－4）8　役　員
高校男子選抜　30（12－10、18－4）14　教　員
学　生　17（9－6、8－5）11　一　般

◇第7回岐阜県総合室内選手権大会（1月6日、7日、大垣）

▼女子1回戦
大垣南嶺会　15－12　本巣高
大垣北高　不戦勝　白梅ク
大垣南高　15－0　鶯谷高

▽準決勝
大垣南嶺会　4－3　加納高
大垣南高　12－1　大垣北高

▽決勝
大垣南高　6（4－2、2－3）5　大垣南嶺会
大垣南高は3回目の優勝

▽男子1回戦
大垣北高　16－15　日本耐酸壜
白梅ク　37－13　不破高
全岐阜西工高　18－12　大垣南高
加納高　8－5　岐山高ク

▽準々決勝
常盤工業　39－22　大垣北高
白梅ク　28－15　全岐阜西工高
大垣南嶺会　30－13　岐阜西工
加納高　15－10　大垣農高

▽準決勝
常盤工業　14－13　白梅ク
大垣南嶺会　13－9　加納高

▽決勝
大垣南嶺会　17（9－7、8－8）15　常盤工業
大垣南嶺会は初優勝

桜丘会辛くも勝つ

◇第5回東海室内選手権（2月20日、岐阜県民体育館）

▼男子準決勝
常盤工業（岐阜）　18（7－8、11－5）13　本田技研（三重）
桜丘会（愛知）　16（9－8、7－7）15　清水商ク（静岡）

▽同決勝
桜丘会　15（8－4、7－10）14　常盤工業

【桜丘】

	氏名	得
GK	近藤	0
FP	小川	1
	新	2
	大矢	3
	高鍬	5
	高橋	3
	有本	1
	森田	0
	山田	0
	川島	0

【常盤】

得	氏名	
0	渡辺	GK
3	永富	FP
2	片岡	
1	高橋	
2	鳥村	
2	吉金	
0	桃井	
0	大野	
4	都築	
0	森	

14（2）7MT（0）15

▼女子準決勝
田村紡（三重）　17（8－3、9－5）8　揖斐川電工（岐阜）
愛知紡（愛知）　22（10－0、12－3）3　静岡城北高（静岡）

▽同決勝
田村紡　17（8－3、9－5）8　愛知紡

【田村】

	氏名	得
GK	渡辺美	0
FP	種村	3
	川口	0
	水谷	3
	小林	3
	内藤	2
	渡辺好	4
	清水	2
	渡辺信	0
	信藤	0

【愛紡】

得	氏名	
0	篠崎	GK
1	小林	FP
0	伊藤	
3	古谷	
1	関口	
3	高橋	
0	近藤	
0	村上	
0	韮塚	
0	小野	

8（0）7MT（2）17

編集後記

○…本誌もこれで31号を数えた。早いものである。年数にすると満6年たち、4月1日からは7年目にはいるわけ。よくぞ、ここまでやってきたと思う。昨年からは月刊（年10回ないし12回）になったが、それまでは季刊の4回目。ずいぶんと成長したものだ。ハンドボール人口がふえて、月刊が週刊になる日も近いことだろう。これは夢でない。やがては訪れよう。考えるだけでも楽しい。

○…2月26日に評議員会が開かれ、一千万円の大型予算が議決された。この大型予算は協会創立いらい初めて。国際試合も来年1月スウェーデンで開かれる男子の世界選手権大会、中国チームの来日。またいそがしくなりそうだ。

○…本誌が発行されるころは、ナショナルチームの候補選手が決まって強化合宿にはいっていることだろう。世界選手権大会、1972年のオリンピック目ざしてがんばりましょう。

○…夏休みにハンドボール少年団の交歓会が柏崎市で開かれる。底辺を広げる意味で、ひと足先に山口－熊本交歓会が開かれたのはタイムリー。（ふぐ）